

# 鹿児島市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート (令和元年度実績)

## ＜令和元年度実績に係る効果検証の考え方＞

今回の効果検証は、令和元年度実績を対象に評価が行われているが、「検証会議の意見」欄には、2年度における新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた取組の改善を求める付帯意見や、その影響を勘案した評価が含まれている。

基本目標 1 (積極戦略 1)	しごとで活力を「つくる」	・・・・・・・・P1
基本目標 2 (積極戦略 2)	結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」	・・・・・・・・P11
基本目標 3 (積極戦略 3)	まちの魅力を「みがく」	・・・・・・・・P21
基本目標 4 (適応戦略 1)	ひと・まちを多彩に「つなぐ」	・・・・・・・・P29
重点戦略 1～4		・・・・・・・・P37

基本目標

1 しごとで活力を「つくる」

検証シート総括表 (R元年度)

<p>&lt;概要&gt;                  (1) 評価 (数値目標・KPI)                  a : 十分に達成されている                  b : 概ね達成されている                  c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見                  A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである                  B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある                  C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
--	--

〔数値目標〕

指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値	評価 (R元)	根拠統計等
事業所数	(H26) 28,317	29,500	事業所	27,279 *	—	—	(国)経済センサス
従業者数	(H26) 278,415	283,000	人	274,569 *	—	—	(国)経済センサス

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

H28年数値

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)	意見 (R元)	根拠統計等
(1) 地域産業の競争力強化(業種横断的取組)										
①新事業・新産業創出の支援	1	新たなビジネス展開に取り組む事業者数	(H26) 8	105	事業者 (5年間)	110	104.8%	c	B	(市)事業実績
		本市の補助金を活用した新たなビジネス展開の事業化率	(H28) 36	60	%	42	25.0%			(市)事業実績
②経営改善の支援	2	産業振興、創業支援、新事業展開支援資金の利用件数	(H26) 1,317	1,350	件	1,185	87.8%	c	B	(市)事業実績
③人材の確保	3	首都圏等からのクリエイティブ人材の移住者数	—	40	人 (4年間)	20	50.0%	c	B	(市)事業実績
(2) 地域産業の競争力強化(分野別取組)										
①商業・サービス業の活性化	4	空き店舗等の再生などによる新規就業者数	—	40	人 (4年間)	8	20.0%	c	B	(市)事業実績
②ものづくり産業の活性化	5	本市の事業活用による商談成約件数	(H26) 11	255	件 (5年間)	275	107.8%	a	A	(市)事業実績
③農林水産業の活性化	6	本市支援による新規就農者数	(H26) 5	25	人 (5年間)	45	180.0%	a	A	(市)事業実績
(3) 若い世代をはじめとする雇用機会の拡大										
①創業・第二創業への支援	7	本市支援による新規創業者数	(H26) 36	180	者 (5年間)	175	97.2%	a	A	(市)事業実績
②企業立地の推進	8	企業立地件数	(H26) 7	35	件 (5年間)	34	97.1%	a	A	(市)事業実績
③若者、女性、高齢者等の活躍促進	9	本市の助成金を活用して雇用される人数	(H26) 426	2,100	人 (5年間)	2,042	97.2%	a	A	(市)事業実績

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R元年度)

ともにH28年数値

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかねばなりません。  
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。  
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R元)	単位
事業所数	(H26) 28,317	29,500	事業所
従業者数	(H26) 278,415	283,000	人

参考値 (R元)	対目標値
27,279 *	—
274,569 *	—

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。  
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜概要＞	(2) 検証会議の意見
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(1) 地域産業の競争力強化(業種横断的取組)								
① 新事業・新産業創出の支援	1	新たなビジネス展開に取り組む事業者数	(H26) 8	105	事業者 (5年間)	110	104.8%	c
		本市の補助金を活用した新たなビジネス展開の事業化率	(H28) 36	60	%	42	25.0%	
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R元)						
健康・環境分野における企業間・産学間等の事業化支援		新サービス等の創出に向けた取組に対し助成するとともに、ヘルスケア分野のビジネスアイデアの創出とその事業化支援(事業化支援:4者×4回)、経済産業省「健康寿命延伸産業創出推進事業」を活用したプロジェクトの支援のほか、産学連携のきっかけづくりを目的としたマッチングイベント(8回)を実施した。これらの支援の結果、焼酎粕を活用した飼料開発を目的とした大学との共同研究や、鹿児島産「健康食」の開発を支援する機能性表示食品開発支援サービスの創出プロジェクトなどに繋がった。 また、補助金を活用して事業化に至った後も、事業者の希望に応じて経営面でのアドバイスを受けることができるように、産業振興アドバイザーによる継続的なサポート体制を確保している。 ヘルスケア分野:会員13者増、助成2件。 新事業展開分野(環境分野を含む):会員11者増、助成1件						
デザイン等のクリエイティブ産業の育成支援と集積促進		「かごしまデザインアワード」や人材育成セミナー等の開催などを通じて、デザイナー等の人材育成や製品等の競争力強化を図ったほか、デザイン・コンテンツ業の企業立地にも取り組んだ。 「かごしまデザインアワード2019」応募件数:478件、セミナー参加者:60人						
市が保有する統計・地理情報等のオープンデータ化の推進		本市ホームページにおいて公開している公共施設の位置情報等のデータ数を拡充した。(30年度末64件⇒R元年度末68件)市民のひろば等での周知広報に努めた。						

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、「本市の補助金を活用した新たなビジネス展開の事業化率」が目標値を下回り、あまり達成されていない。これは、開発段階のものが未だ事業化されていないためであると考えている。 R元年度の取組状況としては、ヘルスケアなどの分野における事業化支援(事業化後のサポートを含む)や、クリエイティブ産業の育成支援に取り組んだほか、オープンデータについては、本市ホームページにおいて公開している公共施設の位置情報等のデータ数を拡充するとともに、市民のひろば等での周知広報に努めた。	専門家による事業化支援や、産学連携のためのマッチング支援、補助事業に対する継続的なサポートのほか、クリエイティブ産業の育成支援や事業化された取組のPR等を引き続き進めていく。 オープンデータについては、利用者の意見・要望を踏まえ、公開するデータの充実を図るとともに、周知広報に努める。 なお、これまでの進捗や計画期間の延長を踏まえ、KPI「新たなビジネス展開に取り組む事業者数」については、R3年度の目標値において上方修正を行っている。



検証会議の意見
KPIについては、事業化率の進捗が伸び悩んでおり、新事業・新産業創出の支援に向けて、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、新しい生活様式に対応した事業化の取組等も含めて、事業者に対する積極的なサポートに努めるべきである。

B

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R元年度)

ともにH28年数値

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	事業所数	(H26) 28,317	29,500	事業所	27,279 *	—
	従業者数	(H26) 278,415	283,000	人	274,569 *	—

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。  
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組む、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

<概要>	(2) 検証会議の意見
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(1) 地域産業の競争力強化(業種横断的取組)	2	②経営改善の支援 産業振興、創業支援、新事業展開支援資金の利用件数	(H26) 1,317	1,350	件	1,185	87.8%	C
②経営改善の支援								
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
経営基盤の安定・強化に向けた融資制度の拡充	中小企業者等の円滑な資金調達を支援するため、創業支援資金等の融資利率を引き下げるとともに、保証料補助拡大の対象となるセミナー等を追加したほか、新事業展開支援資金の融資対象者を拡大した。また、金融機関個別訪問や広報リーフレットの配布等により、経営改善の支援の取組みについて周知広報を図った。							
事業承継・第二創業に取り組む事業者等の支援	事業承継セミナーの開催等を通じて、23人を支援した。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、基準値を下回り、あまり達成されていない。これは低金利政策により民間金融機関の中小企業向け貸出が伸びているため、産業振興資金の利用が減少したものと考えている。 R元年度の取組状況としては、創業支援資金等の融資利率を引き下げるとともに、保証料補助拡大の対象となるセミナー等を追加したほか、新事業展開支援資金の融資対象者を拡大した。また、金融機関個別訪問等を通じて、経営改善の支援の取組みについて周知広報を行ったほか、事業承継セミナーを開催するなど、事業者等に対する支援を行った。	R2年度は、より円滑な資金調達を支援するため、創業支援資金において、従来の一般保証に加え創業関連保証(国の特別保証)が利用できるよう対応保証制度の見直しを行うほか、事業承継を推進するため、新たな領域に挑戦する若手後継者によるベンチャー型事業承継を支援する講習会の開催等を行う。 今後も引き続き、事業者が利用しやすい制度の設計や他課及び関係団体と連携して周知広報に努めるとともに、事業承継セミナーを開催するなど、事業者等に対する支援に取り組む。	KPIについては、民間金融機関の中小企業向け貸し出しが伸びていることから、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、民間金融機関から貸し出しを受けにくい中小企業が利用しやすい仕組みをつくり、積極的に発信するほか、新型コロナウイルス感染症による中小企業の資金繰りへの影響を踏まえ、官民一体となった支援を行うべきである。

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R元年度)

ともにH28年数値

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。  
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。  
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R元)	単位
事業所数	(H26) 28,317	29,500	事業所
従業者数	(H26) 278,415	283,000	人

参考値 (R元)	対目標値
27,279 *	—
274,569 *	—

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。  
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜概要＞

(1) 評価 (KPI)

- a : 十分に達成されている
- b : 概ね達成されている
- c : あまり達成されていない

(2) 検証会議の意見

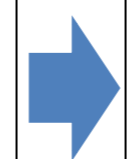
- A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである
- B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある
- C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(1) 地域産業の競争力強化 (業種横断的取組)	3	③ 人材の確保						C
		首都圏等からのクリエイティブ人材の移住者数	—	40	人 (4年間)	20	50.0%	
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
首都圏等のクリエイティブ人材の誘致	UIJターンイベントやお試し移住の実施、移住交通費や事業所改修費を対象とした補助金の交付等により、首都圏等に集中しているクリエイティブ人材の誘致に取り組んだ。 UIJターンイベント参加者:30人、お試し移住参加者:9人、補助金交付対象者:2人、移住実績:3人							
UIJターン人材の確保支援	市内中小企業のUIJターンによる人材の確保を支援するため、県外で開催される合同企業説明会等に参加した事業所(7社)に対し、その経費の一部を助成した。							
産学官連携による若者の地元定着の推進	若者の地元定着等に向けた取組の推進について、産学官が連携して検討を行う「かごしまで働きたい若者応援会議」を開催(年1回)し、出された意見を踏まえた具体的な取組の実施について、関係機関と協議を行った。(国の地方創生推進交付金を活用) また、地元の企業等が一堂に会し、中学生をはじめとする若い世代への企業等の魅力発信や情報提供を行うイベントを関係機関と連携して開催した。(参加者564人)							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、28年度7人、29年度4人、30年度6人、R元年度3人で、単年度あたりの目標値(10人)を下回っており、あまり達成されていない。これは、市の取組の情報がクリエイティブ人材に十分に届いていないことや、移住の決断には時間を要することが原因と考えている。 R元年度の取組状況としては、本市ゆかりのクリエイターの人脈やクリエイティブ関連情報サイトでのWEB広告記事などを活用し、戦略的な情報発信を行うとともに、UIJターンイベントやお試し移住の実施、移住補助金の交付などにおいて、本市独自の取組を行い、移住推進室とも連携を図りながら、クリエイティブ人材の誘致に取り組んだ。 また、県外の合同企業説明会等への参加に対する助成を通じて、中小企業の人材確保の支援を行ったほか、産学官連携による会議を開催し、若者の地元定着等に向けた取組の推進を図った。	引き続き、UIJターンイベントや移住補助金の交付などを行うほか、お越し移住の期間等の拡充やWEBサイトの制作、SNS広告やmark MEIZANなどを積極的に活用した戦略的な情報発信を行い、クリエイティブ人材の誘致に取り組む。 また、東京23区の在住者または23区への通勤者が、市内に移住し、中小企業等に就業または起業した場合に、移住支援金を支給するほか、中学生をはじめとする若い世代に地元企業等の魅力発信や情報提供を行うイベントを関係機関と連携して開催する。 なお、これまでの進捗や計画期間の延長を踏まえ、KPIについては、R3年度の目標値において実質的な下方修正を行っている。



検証会議の意見
KPIについては、情報発信などの取組が実際の移住につながらず、人材の確保に向けて、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、移住関連WEBサイトの部局間の相互連携やオンラインを活用したセミナー・相談会などに取り組むほか、コロナ禍における若い世代の意識変化を踏まえた取組を実施すべきである。

B

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R元年度)

ともにH28年数値

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	事業所数	(H26) 28,317	29,500	事業所	27,279 *	—
	従業者数	(H26) 278,415	283,000	人	274,569 *	—

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。  
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組む、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

＜概要＞	(2) 検証会議の意見
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(2) 地域産業の競争力強化(分野別取組)	4	空き店舗等の再生などによる新規就業者数	—	40	人 (4年間)	8	20.0%	C
① 商業・サービス業の活性化								
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
商店街等の活性化に対する支援	商店街の活性化に向けた主な支援として、イベント開催等の事業に取り組んだ37の商店街に対して助成を行った。また、セミナーと店舗指導による研修会を開催し、7店舗が参加した。(国の地方創生推進交付金を活用)							
リノベーションなど空き店舗等の再生を担う人材の育成	空き店舗等の有効活用や街の賑わい創出のため、参加者が選定した空き店舗等を活用する事業計画の作成を支援する街なかリノベーション実践セミナーを開催した(参加者9人)。そのほか、30年度から開始している創業者と空き店舗のマッチングにより空き店舗の解消を図る創業者テナントマッチング事業について、活用の促進を図った。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、空き店舗の再生により8人の新規就業がなされたが、あまり達成されていない。これは、人材の育成から空き店舗等の再生に至るには一定の時間を要するためであると考えている。 R元年度の取組状況としては、商業・サービス業のさらなる活性化を図るため、商店街等に対して各種支援を行ったほか、空き店舗等の再生を担う人材を育成するため、リノベーション実践セミナーを開催した。そのほか、30年度から開始している創業者と空き店舗のマッチングにより空き店舗の解消を図る創業者テナントマッチング事業の活用の促進を図った。	引き続き、商店街等への各種支援や街なかリノベーション推進事業、創業者テナントマッチング事業により、商業・サービス業の活性化や空き店舗等の再生を担う人材の育成、空き店舗の解消を図る。 R2年度は、空き店舗や低利用資源を活用する事業計画の作成を支援するセミナー等を開催し、まちづくりの一端を担う人材を育成するとともに、団地再生とも連携した空き店舗等の有効活用を促進する。 なお、これまでの進捗や計画期間の延長を踏まえ、KPIについては、R3年度の目標値において下方修正を行っている。	KPIについては、効果が出てくるのに時間がかかることから、商業・サービス業の活性化に向けて、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、団地再生の取組と連携した空き店舗等の有効活用や、リノベーションに関わるキーマンの発掘・育成に粘り強く取り組むべきである。

B

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R元年度)

ともにH28年数値

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	事業所数	(H26) 28,317	29,500	事業所	27,279 *	—
	従業者数	(H26) 278,415	283,000	人	274,569 *	—

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。  
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<概要>	(2) 検証会議の意見
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(2) 地域産業の競争力強化(分野別取組)	5	本市の事業活用による商談成約件数	(H26) 11	255	件 (5年間)	275	107.8%	a
②ものづくり産業の活性化								
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
国内外での展示会や商談会等への出展等、販路拡大への支援	中小企業者等への販路拡大支援として、47社に対し、国内外で開催される展示会に出展する経費等の助成のほか、新たに、企業の海外販路拡大への取組段階に応じた支援を関係機関と連携して行い、42件の商談成約につながった。(国の地方創生推進交付金を活用)							
人材や後継者の育成のための支援	主な支援策として、各種専門員(アドバイザー)を6社及び1団体に派遣し、経営力や販路拡大などに関する指導を行うことにより、人材育成に繋がる取組が図られた。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、目標値を達成し、順調に推移している。 R元年度の取組状況としては、国内外の展示会への出展経費等に助成するとともに、新たに、企業の海外販路拡大への取組段階に応じた支援を関係機関と連携して行った。 また、各種アドバイザーを派遣し、経営力や販路拡大などに関する指導等を行った。	引き続き、本市中小企業者等への積極的な周知広報を実施し、国内外での展示会出展を検討している企業の後押しを行う。 なお、これまでの進捗や計画期間の延長を踏まえ、KPIについては、R3年度の目標値において上方修正を行っている。	KPIについては、ものづくり産業の活性化に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響などに対応した販路拡大への支援策を柔軟に検討していただきたい。 <span style="float: right;">A</span>

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R元年度)

ともにH28年数値

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	事業所数	(H26) 28,317	29,500	事業所	27,279 *	—
	従業者数	(H26) 278,415	283,000	人	274,569 *	—

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。  
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

<b>&lt;概要&gt;</b> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(2) 地域産業の競争力強化(分野別取組)	6	本市支援による新規就農者数	(H26) 5	25	人 (5年間)	45	180.0%	a
③ 農林水産業の活性化								
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
本市農産物等を活用した6次産業化の推進	6次産業化研修会(1回:参加者10名)の開催や、新商品開発及び県外商談会(1回:1団体)への支援などを通じ、新たに13の加工品が商品化された。その後、イベント等で商品紹介を行うなど販売促進にも取り組み、生産者の所得の向上が図られた。							
新規就農者の育成	就農相談や基礎研修などの就農支援のほか、農業次世代人材投資資金の交付や施設整備の助成などにより、新規就農者が12人(新規参入者2人と後継者10人)確保された。農協と連携して、共同販売への加入や直売所への出荷を呼びかけ、新規就農者の販路開拓が図られた。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、目標値を達成し、順調に推移している。 R元年度の取組状況としては、新商品開発等に支援し、新たな加工品づくりを促進するとともに、就農相談や技術習得に対する支援のほか、農業次世代人材投資資金の交付などにより、青年就農者の経営安定に努めた。 また、農協と連携して、共同販売への加入や直売所への出荷を支援し、新規就農者の販路開拓が図られた。	加工や販売などの専門家の助言や、県内外の事例を紹介するなど、6次産業化に取り組む意欲がある生産者を支援し、6次産業化を促進する。 また、本市の農林水産物等のPRを生産者団体等と連携して県内外で行い、販路の拡大を行う。 新規就農者の定着に向け、引き続き関係機関と連携し、経営や農業技術の助言・指導を行う。 スマート農業については、先進的な活用事例を情報提供するほか、国などの事業の活用にも努める。 なお、KPIについては、R3年度の目標値において上方修正を行ったが、その目標値を達成していることから、さらなる上方修正を検討する。	KPIについては、農林水産業の活性化に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、スマート農業の導入を進め、ICTを利用した効果的・効率的な農業に向けたインフラ整備に取り組むほか、新規就農者の所得向上に向けた取組を継続的に実施していただきたい。

A



積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R元年度)

ともにH28年数値

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	事業所数	(H26) 28,317	29,500	事業所	27,279 *	—
	従業者数	(H26) 278,415	283,000	人	274,569 *	—

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。  
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜概要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(3)若い世代をはじめとする雇用機会の拡大	7	本市支援による新規創業者数	(H26) 36	180	者 (5年間)	175	97.2%	a
①創業・第二創業への支援								
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
インキュベーション施設の機能強化	ソフトプラザかごしまリニューアル整備・運営基本計画に基づき、30年度に同施設をクリエイティブ産業創出拠点施設「mark MEIZAN」として整備し、クリエイティブ人材の育成、コミュニティ形成、情報発信に取り組んだ。(企業版ふるさと納税制度を活用)							
新規創業者等の育成支援	ソーホーかごしま等へのインキュベーションマネージャーの配置によるワンストップ相談窓口の設置、創業スキル関連講座の開催などを通じて422人を支援し、32者が新規創業した。また、創業支援者に対する追跡調査を行い、創業状況や創業後の課題など、創業支援者の現状把握を行った。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、順調に推移している。 R元年度の取組状況は、創業スキル関連講座の開催等を通じて新規創業への支援を着実に推進するとともに、クリエイティブ産業創出拠点施設「mark MEIZAN」の企画運営を行った。 また、創業支援者に対し、追跡調査を行い、フォロー体制の構築に向けた現状把握を行った。	ソーホーかごしまやmark MEIZANにおいて、セミナー等を実施するとともに、創業後における追跡調査や支援体制の構築、大学と連携した事業の実施などにより、新規創業者等に対する支援に努める。	KPIについては、創業・第二創業への支援に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、新規創業者の追跡調査を踏まえるとともに、リモートワークに対応した支援体制の構築に取り組むほか、若い世代や外部専門家の積極的なプロジェクト参画について検討していただきたい。



積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R元年度)

ともにH28年数値

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	事業所数	(H26) 28,317	29,500	事業所	27,279 *	—
	従業者数	(H26) 278,415	283,000	人	274,569 *	—

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。  
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組む、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜概要＞	(2) 検証会議の意見
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(3)若い世代をはじめとする雇用機会の拡大	8	②企業立地の推進 企業立地件数	(H26) 7	35	件 (5年間)	34	97.1%	a
主な取組内容								
企業訪問等による立地環境のPR		雇用の創出と地域経済の活性化を図るため、首都圏の企業を中心に訪問活動を行うとともに、首都圏の展示会出展、メディア広告やアンケート調査などを合わせて行うことで、本市の企業立地補助制度等の立地環境のPRを行い、7件(計画従業員数299人)の立地協定につなげた。また、連携中枢都市圏構成市関係課の企業立地担当者会議の定期的な開催、企業立地HPの相互リンク、補助金の要件である新規雇用者数に圏域市民を算入するなどの取組を引き続き行った。						
市内外企業の立地等に対する支援		立地した企業に対して新規雇用や設備投資等への助成を14件行うとともに、引き続きコールセンター見学会を開催するなど、立地企業の雇用確保への支援を行った。						

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、順調に推移している。 R元年度の取組状況としては、首都圏における展示会へのブース出展や企業立地促進補助制度のPR、市内企業に対する訪問の強化など、企業立地を推進する活動を積極的に行った。また、新たに市内製造業の新規雇用者数の要件を緩和し、市外への流出防止に努めた。 また、連携中枢都市圏構成市で連携したPRや、立地企業の雇用確保を支援するためのコールセンター見学会などを実施した。	引き続き積極的な企業訪問を行い、補助制度や、都市の魅力など本市の強みをPRし、企業立地のさらなる推進に取り組むとともに、フォロー活動における情報交換等を通じて立地企業の状況把握や雇用確保への支援を行う。また、連携中枢都市圏の構成市及び県との連携を図りながら企業立地を促進する。	KPIについては、企業立地の推進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、リモートワークなど働き方の多様化に対応して、戦略的に取り組んでいただきたい。 <span style="float: right;">A</span>

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R元年度)

ともにH28年数値

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	事業所数	(H26) 28,317	29,500	事業所	27,279 *	—
	従業者数	(H26) 278,415	283,000	人	274,569 *	—

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。  
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組む、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜摘要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(3)若い世代をはじめとする雇用機会の拡大	9	本市の助成金を活用して雇用される人数	(H26) 426	2,100	人 (5年間)	2,042	97.2%	a
③若者、女性、高齢者等の活躍促進								
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
若者の雇用促進、就業を中断していた女性や高齢者の再就職等の支援	トライアル雇用支援金の支給による若年者等の雇用促進(雇用された人数74人)のほか、シルバー人材センターへの補助を通じた高齢者の就業機会の拡大(会員数4,081人)を図った。 また、経営者・管理職向けのセミナー(参加者66人)及び女性管理職を育成、応援するセミナー(参加者45人)の実施や女性を対象とした職場見学会(実施回数7回、参加者42人)、子育て支援施設での就活応援講座(実施回数5回、参加者36人)などを実施した。(国の地方創生推進交付金を活用)							
障害者や高齢者、ひとり親家庭の母等を雇用した事業主に対する奨励金の支給	市内に在住する障害者、高齢者、母子家庭の母など就職が特に困難な者を、継続して雇用する労働者として雇用した市内に事業所を有する中小企業の事業主に対して就職困難者等雇用奨励金を支給し、雇用促進が図られた(雇用された人数358人)。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、順調に推移している。 R元年度の実績状況としては、経営者・管理職向けのセミナーを実施するなど、女性活躍の意義についての理解を深め、その取組を促進した。 また、シルバー人材センターの会員数が過去最高を更新するなど、高齢者の就労機会の拡大が図られた。	引き続き、助成金の周知広報に努めるとともに、労働局等の関係機関とも連携を図りながら、若い世代をはじめ、女性や高齢者等の就労促進に努める。 また、経営者・管理職向けのセミナーや女性管理職を育成、応援するセミナーを継続的に実施し、女性の活躍促進に取り組むとともに、関係部署とも連携を図りながら、女性が働きやすい環境整備に努める。	KPIについては、若者、女性、高齢者等の活躍促進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 <span style="float: right;">A</span>

基本目標

2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」 検証シート総括表 (R元年度)

<p>&lt;摘要&gt;</p> <p>(1) 評価 (数値目標・KPI)</p> <p>a : 十分に達成されている</p> <p>b : 概ね達成されている</p> <p>c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見</p> <p>A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである</p> <p>B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある</p> <p>C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
--	--

〔数値目標〕

指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値	評価 (R元)	根拠統計等
出生数	(H25) 5,647	27,000	人 (5年間)	21,592 *	—	—	(国)人口動態統計

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	H27~30年数値				根拠統計等
						実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)	意見 (R元)	
<b>(1) 若い世代の経済的安定</b>										
①若者の就業支援	10	トライアル雇用支援金を活用して雇用される若年者等の人数	(H26) 134	700	人 (5年間)	467	66.7%	c	B	(市)事業実績
②貧困の世代間連鎖の解消	11	就労支援した若者等の就職者数	—	310	人 (5年間)	269	86.8%	b	A	(市)事業実績
<b>(2) 結婚の希望の実現</b>										
①次世代を担う若者への意識啓発	12	ライフデザインセミナー参加者数	—	1,600	人 (4年間)	2,269	141.8%	a	A	(市)事業実績
②結婚への支援	13	婚活事業への参加者の満足度	—	90	%	82.1	91.2%	a	A	(市)アンケート
(3)妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	14	妊娠出産について満足している者の割合	(H27) 84.1	85	%	88.3	103.9%	a	A	(市)アンケート
<b>(4) 子育て支援の充実</b>										
①子育て支援施設の整備・充実	15	保育所等の待機児童数	(H26) 47	0	人	209	-344.7%	c	B	(市)事業実績
②放課後における児童の健全育成	16	児童クラブの待機児童数	(H26) 171	0	人	68	60.2%	c	A	(市)事業実績
③子育て世帯への経済的支援	17	出生数に占める第3子以降の割合	(H25) 19	20	%	18.2 *	-80.0%	c	A	(国)人口動態統計
(5)ワーク・ライフ・バランスの普及促進	18	男女共同参画センターにおけるワーク・ライフ・バランスをテーマとした講演会・講座の受講者数	(H26) 472	1,500	人 (5年間)	1,849	123.3%	a	A	(市)事業実績

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R元年度)

H27～30年数値

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生み育てることができる環境を整備していかなければなりません。 引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。 そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	出生数	(H25) 5,647	27,000	人 (5年間)	21,592 *	—

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。  
 また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

<b>&lt;概要&gt;</b> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(1) 若い世代の経済的安定	10							C
① 若者の就業支援		トライアル雇用支援金を活用して雇用される若年者等の人数	(H26) 134	700	人 (5年間)	467	66.7%	
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R元)						
若者の就職・起業、人材育成の促進		若者の職場定着について、関係機関と連携を図りながら状況把握に努め、トライアル雇用支援金の支給(雇用された若年者等61人)やものづくり分野でのマッチング(マッチング実績5人)、ステップアップセミナーの開催(参加者687人)などにより若年者の就労促進や勤労観・職業観の醸成を図ったほか、ものづくり分野の事業主への職業訓練に要する経費の助成(21人分)などを通じて、人材育成を支援した。 また、若者の地元就職等に向けた取組の推進について、産学官が連携して検討を行う「かごしまで働きたい若者応援会議」を開催(年1回)したほか、未来起業家応援セミナーを開催(参加者40人)し、学生等の起業マインドの醸成を図った。(国の地方創生推進交付金を活用)						

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、人手不足の状況を反映し、実績が減少傾向にあり、あまり達成されていない。 R元年度の取組状況としては、トライアル雇用終了後も継続雇用している事業主に対して支援金の支給を行ったほか、ものづくり分野における事業主とのマッチング支援や高校生を対象とした就職セミナー、学生等を対象とした起業セミナーの開催など、若者の就業支援、起業支援に着実に取り組んでいる。	引き続き、若者の就業支援、起業支援に取り組むとともに、トライアル雇用支援金については、直近の雇用情勢や国の助成金の動向も踏まえながら、周知広報等を通じて利用促進に努める。 また、若者の職場定着については、関係機関と連携を図りながら状況把握に努め、職場定着に関する国の助成金の広報など、連携した取組を進めていくとともに、高校生や新就職者を対象に開催するセミナー等により、勤労観・職業観の醸成を図る。	KPIについては、人手不足の状況を反映し、若者の就業支援に向けて、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響による雇用環境の変化を踏まえて、就労支援の在り方を検討するとともに、職場定着に向けた支援策の周知や積極的な働きかけに努めるべきである。

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R元年度)

H27~30年数値

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生ま育てることができる環境を整備していかなければなりません。 引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。 そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	出生数	(H25) 5,647	27,000	人 (5年間)	21,592 *	—

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。  
 また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

<b>&lt;概要&gt;</b> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(1) 若い世代の経済的安定	11	就労支援した若者等の就職者数	—	310	人 (5年間)	269	86.8%	b
② 貧困の世代間連鎖の解消								
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
ひとり親家庭や生活困窮世帯の若者等の就労活動と子どもの学習の支援	生活困窮者等への就労支援を引き続き実施し、「生活・就労支援センターかごしま」内の生活自立支援センターとハローワーク窓口の連携により、若者等への就労支援をワンストップで行った。学習支援については、生活困窮世帯等の小学5・6年生及び中学生に、学力の向上や学習習慣の定着を目的とした学習会を、大学生や教員OB等と協力し、5月から2月まで3カ所まで延べ140回実施した。また、ひとり親家庭の就業支援として実施する講習会は、ニーズの高い医療事務講座を昨年に引き続き実施した。(受講者18人)							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、概ね順調に推移している。 「生活・就労支援センターかごしま」内の生活自立支援センターとハローワーク窓口の連携により、若者等への就労支援をワンストップで行ったほか、生活困窮世帯・ひとり親家庭等の小学5・6年生及び中学生への学習支援(学習会)を、大学生や教員OB等と協力して実施した。母子家庭等自立支援事業では、医療事務講座を実施し、技術習得の機会を提供した。 子どもの生活に関するアンケート調査の結果を踏まえ、R元年度はひとり親家庭等総合相談会を実施するなど、ひとり親支援の充実を図った。また、庁内関係課と連携し、取組の検討を進めた。	「生活・就労支援センターかごしま」によるワンストップでの支援体制を充実するとともに引き続き、関連施策の広報・周知を進め、関係機関と連携し、取組の推進を図っていく。 R2年度は子どもの貧困問題や対策に関する職員向け研修会の開催やパンフレット作成など、庁内外でより連携した取組や啓発をより一層図っていく。 また、ひとり親家庭の就業支援として実施する講習会については、医療事務講座に加え、調剤薬局事務講座を実施し、更なる支援の充実を図る。	KPIについては、貧困の世代間連鎖の解消に向けて、概ね達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、就労後も必要に応じて適切な支援を行っていただきたい。 <span style="float: right;">A</span>

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R元年度)

H27～30年数値

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生き育てることができる環境を整備していかなければなりません。 引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。 そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	出生数	(H25) 5,647	27,000	人 (5年間)	21,592 *	—

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。  
 また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

<b>&lt;概要&gt;</b> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(2) 結婚の希望の実現	12							a
①次世代を担う若者への意識啓発		ライフデザインセミナー参加者数	—	1,600	人 (4年間)	2,269	141.8%	
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
結婚、妊娠、出産、子育てに対する気運の醸成	次世代を担う若者への意識啓発として、短大生・大学生を対象にライフデザインセミナー(シンポジウム2回・セミナー7回)を開催し、513人の参加があった。セミナー参加前後にアンケートを実施したところ、参加者の68%が、結婚に対する不安や心配な気持ちが軽減されたと回答した。学生だけでなく、新たに企業の若手社員を対象に、より幅広い若年層に向けたセミナーを実施した。そのほか、学生が結婚や家庭を持つことの意義について理解を深めることができるよう、学生による挙式プロデュースを実施した。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、目標値を達成し、順調に推移している。 R元年度の取組状況としては、ライフデザインセミナー事業及び挙式プロデュース事業を、大学・高校・企業等と連携して実施した。また、両事業の前後に、アンケートを実施し、参加者の意識変化の把握を行った。	引き続きライフデザインセミナー事業・挙式プロデュース事業を推進し、男子学生や新社会人を含むより幅広い若年層への意識啓発に努める工夫をし、結婚、妊娠、出産、子育てに対する気運の醸成に取り組んでいく。 なお、KPIについては、これまでの進捗を踏まえ、R3年度の目標値において上方修正を検討していく。	KPIについては、次世代を担う若者への意識啓発に向けて、十分に達成されている。 引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、アンケート結果を分析し、さらにセミナーの改善を検討していただきたい。

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R元年度)

H27～30年数値

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生ま育てることができる環境を整備していかなければなりません。 引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。 そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	出生数	(H25) 5,647	27,000	人 (5年間)	21,592 *	—

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。  
 また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

＜摘要＞

(1) 評価 (KPI)

- a : 十分に達成されている
- b : 概ね達成されている
- c : あまり達成されていない

(2) 検証会議の意見

- A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである
- B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある
- C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(2) 結婚の希望の実現	13							a
② 結婚への支援		婚活事業への参加者の満足度	—	90	%	82.1	91.2%	
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
出会う場の提供、民間の婚活事業への支援の検討	以下の各種イベントを開催し、出会う場を提供した。 出会い・ふれあい企業対抗運動会(参加者数 503人、満足度 82.7% カップル数 24組(H30 10組)) 出会いサポートイベント (参加者数 210人、満足度 81.5% カップル数 24組(H30 23組))							
新婚世帯等の市営住宅への入居支援	新婚・子育て世帯向け市営住宅支援事業を実施し、市営住宅への新婚世帯等の入居を支援した。(募集戸数 58戸)							
結婚相談所における結婚のあっ旋	結婚相談所を運営し、結婚希望者に出会う場を提供するとともに、婚活応援セミナーを実施した。 (登録者数:H30 971人→R元 633人、お見合い者数:H30 1,166人→R元 846人、婚約成立数:H30 17組→R元 15組)							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、順調に推移している。 R元年度の取組状況としては、出会い・ふれあい企業対抗運動会と、出会いサポートイベント(謎解き婚活イベント)を開催し、カップル数が両イベントとも増加したほか、結婚相談所の運営を通じて出会う場を提供するとともに、R元年度から新たに婚活応援セミナーを実施した。 また、新婚世帯等向けに、市営住宅の優先入居を実施した。	引き続き、出会い・ふれあい企業対抗運動会や、出会いサポートイベントを開催するとともに、新たな婚活イベントの実施など、出会う場の提供に積極的に取り組む。結婚相談所については、登録者数や婚約成立数が減少していることから、さらなる周知広報やサービス向上に努めるなど、利用促進を図り、結婚を希望する方の婚活をサポートする。 また、今後も引き続き、新婚世帯等の市営住宅への入居支援に取り組む。



検証会議の意見	
KPIについては、結婚への支援に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、結婚相談所の登録者数などが減少傾向にある背景の分析を進め、結婚相談所の運営方法の見直しやさらなるPR活動に努めていただきたい。	A



積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R元年度)

H27~30年数値

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生き育てることができる環境を整備していかなければなりません。 引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。 そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	出生数	(H25) 5,647	27,000	人 (5年間)	21,592 *	—

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。  
 また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

<b>&lt;概要&gt;</b> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(3) 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	14	妊娠出産について満足している者の割合	(H27) 84.1	85	%	88.3	103.9%	a
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R元)						
子育て世代包括支援センターを中心とした継続的な支援	子育て世代包括支援センターにおいて、妊娠・出産・子育てに関する相談支援、情報提供などの取組を進め、産婦健康診査事業(受診:8,543件)に取り組んだほか、産後ケアの推進を図り、294人が延910日(宿泊型:111人延680日、日帰り型:183人延230日)利用した。							
不妊治療に対する助成	特定不妊治療への費用を866件(H30 776件)助成したほか、不育症治療への費用を12件助成した。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、目標値を達成し、順調に推移している。 母子保健支援員の配置や母子保健サポーターの活動開始など子育て世代包括支援センターの体制整備後、ノウハウも蓄積してきており、母子保健に関する他の事業と併せて、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に取り組んでいる。	子育て世代包括支援センターの機能をさらに発揮し、関係機関と連携しながら、産後早い時期での産婦健康診査を実施するなどして、地域での子育て支援の充実に取り組む。 このほか、妊娠期からのハイリスク家庭の把握及び支援充実、訪問指導時の問診票等使用によるハイリスク家庭の把握に努める。また、不妊専門相談センターによるさらなる相談支援の充実を図る。	KPIについては、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、妊産婦に対するメンタル面のケアのほか、KPIの根拠となるアンケート結果を分析し、妊産婦のニーズに対応した施策の改善や、より戦略的な施策を検討していただきたい。

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R元年度)

H27~30年数値

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを育てることができる環境を整備していかなければなりません。  
引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。  
そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R元)	単位
出生数	(H25) 5,647	27,000	人 (5年間)

参考値 (R元)	対目標値
21,592 *	—

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。  
また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜概要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(4) 子育て支援の充実	15	① 子育て支援施設の整備・充実 保育所等の待機児童数	(H26) 47	0	人	209	-344.7%	C
主な取組内容								
親子つどいの広場などの整備		親子つどいの広場や、すこやか子育て交流館等において、8,665件の各種相談を受けるなど、子育て支援の充実に努めた。						
認可保育所等の整備促進		鹿児島市保育所等整備計画に基づき、保育所及び幼保連携型認定こども園の新設等により、定員230人分の整備を行った。						
認可外保育施設に対する助成		認可外保育施設に入所している児童の保育環境の向上や、児童の健全な育成を図るため、認可外保育施設25施設に対し、運営費等の助成を行った。また、認可外保育施設の利用希望者に対しては、近隣施設の紹介や、認可外保育施設指導監督基準に適合しているか等の情報提供を行った。						

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、30年度158人より増加しており、保育需要の増加等の理由により待機児童数が依然として解消には至っていないことから、あまり達成されていない。 R元年度の取組状況としては、親子つどいの広場などでの年間8,000件を超える各種相談受付や29年度に改定した保育所等整備計画に基づく定員230人分の整備を行った。 保育士・保育所支援センターにおいては、マッチング数64件に対して採用決定者63人、うち保育所等に勤務していない者は40人で、潜在保育士の掘り起こしに成果を挙げている。 保育士等の処遇改善については、R元年度に、全職員を対象に月額約3千円の賃金改善を行った。	子育て支援施設の整備・充実については、第二期鹿児島市子ども・子育て支援事業計画に基づき、待機児童を解消するため、認可保育所の定員増等による受け皿確保を行うほか、保育士・保育所支援センターによる潜在保育士の確保に加え、保育士確保に係る意見交換会や保育士を目指す学生向けのイベントを行うなど、早期の待機児童解消に向けて積極的に取組を進めていく。 また、地域の子育て支援機能の充実に向け、親子つどいの広場等においてきめ細かな支援体制を強化するとともに、子育て拠点施設職員のスキルアップや、施設間の連携を図っていく。 なお、これまでの進捗や計画期間の延長を踏まえ、R2年度から取組の成果を図るための新たな指標として、KPIに「保育所等への入所率」を追加している。



検証会議の意見
KPIについては、保育士確保の困難さから、子育て支援施設の整備・充実に向け、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、潜在保育士の確保とその支援や保育士の処遇改善をさらに検討するとともに、保育所等の新設にあたっては事前に十分な分析・検討を行うべきである。

B

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R元年度)

H27~30年数値

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生き育てることができる環境を整備していかなければなりません。 引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。 そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	出生数	(H25) 5,647	27,000	人 (5年間)	21,592 *	—

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。  
 また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

<b>&lt;概要&gt;</b> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(4) 子育て支援の充実	16							C
②放課後における児童の健全育成		児童クラブの待機児童数	(H26) 171	0	人	68	60.2%	
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
児童クラブの計画的な設置	待機児童の解消に向け、児童クラブの施設整備を行い、10か所を開設した(H30 153か所→R元 163か所)ほか、民間の児童クラブを新たに2か所補助対象とした。(H30 26か所→R元 28か所) また、補助員報酬の引き上げを行ったほか、支援員等の確保が課題となっていることから、各クラブの募集情報を、市民のひろばや市ホームページで周知するなど、確保に向けた支援を行った。							
新・郷中教育推進事業の拡充	年次計画に基づき、新たに18校で放課後子ども教室を開設し、合計78教室で2,352人の児童に利用された。(参考:30年度 60教室1,612人)							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、27年度から児童クラブの利用対象児童が小学6年生までに拡大されたこともあり、あまり達成されていないが、施設整備等への取り組みにより、待機児童数は30年度の181人から68人に減少した。 R元年度においても、児童クラブの計画的な設置を進めるとともに、処遇改善や支援員等の確保に向けた支援を行った。 新・郷中教育推進事業では、年次計画に基づき、新たに18校で放課後子ども教室を開設した。	児童クラブについては、現在の待機児童の状況や就学児童数の見込み等から今後の利用希望児童数を分析し、余裕教室の活用や専用施設の設置、民間による設置など、更に整備を進める。 また、支援員等の処遇改善に努めるとともに、引き続き、地域との連携による支援員等の確保に向けた支援に取り組む。このほか、放課後児童支援員資格取得の促進や、児童の育成支援に必要な研修の実施にも積極的に取り組む。 新・郷中教育推進事業では、各小学校区に放課後子ども教室を開設し、学習や体験・交流活動等に取り組む。 なお、27年度に児童クラブの対象児童が小学6年生までに拡大したことを踏まえ、R2年度からKPIの基準値を変更している。



検証会議の意見
KPIについては、対象学年の拡大により、放課後における児童の健全育成に向けて、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、支援員の確保や処遇改善に努め、資格を取得しやすい方を模索するとともに、施設環境の充実や資質向上に向けた研修等に取り組んでいただきたい。
A

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」 検証シート (R元年度)

〔基本目標〕 かなえる

H27～30年数値

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生み育てることができる環境を整備していかなければなりません。 引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。 そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	出生数	(H25) 5,647	27,000	人 (5年間)	21,592 *	—

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。  
 また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜摘要＞	
(1) 評価 (KPI)	(2) 検証会議の意見
a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(4) 子育て支援の充実 ③ 子育て世帯への経済的支援	17	出生数に占める第3子以降の割合	(H25) 19	20	%	18.2 *	-80.0%	C
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
こども医療費の助成対象の拡大(小学6年生→中学3年生)	中学3年生までの子どもの保護者に対し、医療費の一部を助成した。30年10月からは、市町村民税非課税世帯の未就学児を対象に、医療機関等の窓口負担をなくす制度を導入した。 【助成実績】347,927件							
多子世帯への助成	2人以上の子どもを持つ低所得者世帯及びひとり親世帯等の子どもが保育所等に入所した場合において、国・県の制度に基づく助成を行った。 (1) 保育料(保育所・認定こども園) ・市町村民税非課税世帯等(1号認定世帯:年収約270万円未満相当及び2号認定世帯:年収約260万円未満相当)及び市町村民税所得割課税額が77,100円以下(年収約360万円未満相当)のひとり親世帯等について、第2子の保育料を無料にした。 ・市町村民税所得割課税額が1号認定世帯77,100円以下及び2号認定世帯57,700円未満の場合は、第1子の年齢に関わらず、第2子児童は2分の1、第3子以下の児童は保育料を無料にした。 ・市町村民税所得割課税額が97,000円未満の世帯のうち、満18歳未満の年長者から3人目以降に該当する児童について、保育料を軽減した。 (2) 幼稚園就園奨励費(R元:9月分まで) ・市町村民税非課税世帯等(年収約270万円未満相当の世帯)について第2子の保育料を無償化し、市町村民税所得割課税額が77,100円以下(年収約360万円未満相当)の世帯の第1子及び第2子の保育料を軽減した。 (3) 多子世帯保育料等軽減事業(私立幼稚園)(R元:9月分まで) ・私立幼稚園に就園する3・4・5歳児の多子世帯の保護者で市民税所得割額が97,000円未満の者に対し、幼稚園の設置者が18歳未満の児童の上から数えて第3子以降の保育料を減免した場合に県の制度に基づき補助							
幼児教育・保育の無償化	R元年10月から、保育所等を利用している3～5歳及び0～2歳の住民税非課税世帯の保育料の無償化を実施した。							
就学・通学の援助、奨学資金の貸付	就学・通学の援助として、次のとおり、必要な援助・助成を行った。 ・国公立小・中学校に在籍する経済的に困窮している児童生徒の保護者に対し、学用品費や給食費等を援助 ・特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、学用品費や給食費等を援助 ・通級指導教室へ通う児童生徒を保護者が自家用車で送迎する場合の燃料代や公共交通機関を利用して付き添うための運賃を助成 ・遠距離または交通安全を理由に校区内の小中学校に公共交通機関等を利用して通学する児童生徒の保護者に対し、交通費を助成 また、奨学金及び入学一時金貸付の募集を行い、必要な貸付を行った。							
子育て世帯向けの市営住宅の整備	建替(既存住宅を解体して新築)9戸が完成し、改善(リフォーム)5戸に着手した。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、これまで年々増加傾向にあったが、第1子・第2子の出生数が増加(前年比131人増)したこともあり、前年比1.6ポイント減となったため、あまり達成されていない。 R元年度の取組状況としては、多子世帯への助成や就学・通学の援助など、経済的負担軽減を実施するとともに、R元年10月から、保育所等を利用している3～5歳及び0～2歳の住民税非課税世帯の保育料の無償化を実施した。そのほか、子育て世帯向けの市営住宅の整備を行った。	今後も引き続き、子育て世帯の経済的負担軽減に努めるとともに、子育て世帯向けの市営住宅の整備を行う。 また、こども医療費の助成については、県の補助事業であることから、これまでも県に対して、現物給付方式の導入等について要望してきたが、今後も引き続き、義務教育である中学3年生までの児童・生徒を対象として、所得にかかわらず、医療費の負担軽減を図り、現物給付方式を導入することを要望していく。	KPIについては、第1子・第2子の出生数が増加したこともあり、子育て世帯への経済的支援に向けて、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、こども医療費助成の現物給付方式の導入を積極的に進めていただきたい。

A

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R元年度)

H27～30年数値

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを育てることができる環境を整備していかなければなりません。  
引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。  
そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R元)	単位
出生数	(H25) 5,647	27,000	人 (5年間)

参考値 (R元)	対目標値
21,592 *	—

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。  
また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜概要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(5)ワーク・ライフ・バランスの普及促進	18	男女共同参画センターにおけるワーク・ライフ・バランスをテーマとした講演会・講座の受講者数	(H26) 472	1,500	人 (5年間)	1,849	123.3%	a
事業所へのワーク・ライフ・バランス推進の広報啓発		ワーク・ライフ・バランス推進への取組事例などをリーフレットや労働局と合同で開催するセミナー等で紹介し、事業所の意識啓発を図るとともに、無料でワーク・ライフ・バランス推進アドバイザー(社会保険労務士)を派遣して、具体的な取組を支援した。(リーフレット発行:5,000部、セミナー参加者:約250人、アドバイザー派遣:2社)(国の地方創生推進交付金を活用) また、経営者・管理職の意識改革プログラムを実施し、経営者等への意識啓発を図るとともに、仕事と生活を両立しやすい環境の整備を推進するため、29年度に設立したイクボス推進同盟の周知広報に努め、同盟加盟数が増加した。(プログラム参加者:66人)(イクボス推進同盟加盟数 H30 57企業・団体→R元 73企業・団体)(国の地方創生推進交付金を活用)						
男女共同参画センターにおける啓発情報誌の発行や両立支援セミナーなどの開催		男女共同参画情報誌を発行(年2回各25,200部)し、市内の中小企業その他、金融機関、理・美容院、町内会等に配布したほか、女性活躍推進に関するセミナー等を開催し、男女共同参画の形成に対する市民の理解と認識を深め、ワーク・ライフ・バランスの普及促進に努めた。(国の地方創生推進交付金を活用)						

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、目標値を達成し、順調に推移している。 R元年度の取組状況としては、引き続き、男女共同参画情報誌を配布し、ワーク・ライフ・バランスの広報啓発を図ったほか、アドバイザー派遣により具体的な取組支援を行うとともに、労働局など関係機関と連携を図りながら、働きやすい職場づくりが望まれる事業所に対してより効果的な取組となるよう、セミナー開催や先進的な取組事例の情報発信を行った。 また、イクボス推進会議を開催し、ワーク・ライフ・バランスの先進事例や他企業等の取り組みに関する情報の共有を行ったほか、イクボス推進同盟加盟企業・団体数の増加に努め、29年11月の同盟設立時から大幅に増加(設立時32→R元年度末73)するなど、取組の推進が図られている。	引き続き、男女共同参画情報誌の発行や労働局など関係機関と連携したセミナーの開催など、ワーク・ライフ・バランスの普及啓発を図るとともに、アドバイザーの派遣による具体的な取組支援等に努める。 また、引き続きイクボス推進同盟の参加企業・団体の増加に努めるとともに、他事業と連携した取組を進めるなど、取組内容の充実を図っていく。 なお、これまでの進捗や計画期間の延長を踏まえ、KPI「男女共同参画センターにおけるワーク・ライフ・バランスをテーマとした講演会・講座の受講者数」については、R3年度の目標値において上方修正を行っているほか、R2年度からワーク・ライフ・バランスの推進の成果を測るための指標として、KPIに「時間外勤務の削減に関する取組を実施している企業の割合」を追加している。



検証会議の意見
KPIについては、ワーク・ライフ・バランスの普及促進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえたオンラインでのセミナー開催などを検討していただきたい。

A

積極戦略

3 まちの魅力を「みがく」

検証シート総括表 (R元年度)

<b>&lt;摘要&gt;</b>	
<b>(1) 評価 (数値目標・KPI)</b> a:十分に達成されている b:概ね達成されている c:あまり達成されていない -:評価なし	<b>(2) 検証会議の意見</b> A:引き続き、現状の取組を推進すべきである B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔数値目標〕

指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値	評価 (R元)	根拠統計等
宿泊観光客数	(H26) 336	375	万人	392	—	—	(市)観光統計

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)	意見 (R元)	根拠統計等
<b>(1) 鹿児島オリジナルの魅力向上</b>										
①食の都づくり	19	民間主体の新たな食のイベント数	—	4	件 (5年間)	4	100.0%	a	A	(市)事業実績
②歴史、自然等を生かした観光の振興	20	入込観光客数	(H26) 950	1,050	万人	1,000.7	50.7%	c	B	(市)観光統計
③花と緑の回遊空間づくり	21	都市公園の市民一人当たり面積	(H27) 7.62	7.77	m <sup>2</sup>	7.87	166.7%	a	A	(市)事業実績
④潤いのある都市景観の形成	22	景観形成重点地区	(H26) 2	5	地区	5	100.0%	a	A	(市)事業実績
<b>(2) まちなかのにぎわい創出</b>										
①集客力・回遊性の向上	23	中心市街地の歩行者通行量	(H26) 16	17.1	万人	15.0	-90.9%	c	B	(市)事業実績
②新たな都市拠点の形成	24	JR鹿児島駅の乗降客数	(H24) 121.4	122.5	万人以上	118.7	-245.5%	b	A	(市)事業実績
		「かんまちあ」で開催されるイベント数	—	100	件	194.0	194.0%			(市)事業実績

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R元年度)

〔基本目標〕 **みがく**

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26)	336	375	万人	392

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。  
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

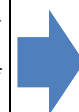
<b>&lt;概要&gt;</b> <b>(1) 評価 (KPI)</b> a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	<b>(2) 検証会議の意見</b> A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(1)鹿児島オリジナルの魅力向上	19							
①食の都づくり		民間主体の新たな食のイベント数	—	4	件 (5年間)	4	100.0%	a
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R元)						
食品関連事業者の育成支援		新商品開発に対する補助金や商談会に関するセミナーの開催等により、食品関連事業者の新商品開発や販路開拓等を支援した。(支援事業者数 延べ75者)						
民間団体等が実施する食に関するイベントの拡充・促進		民間団体が実施する食のイベントとして3事業への助成を行った。(28年度から合計4件) ①鹿児島バル街中央駅周辺活性化事業 (実施団体:鹿児島バル街実行委員会、実施時期:R元年5月11日(土)~24日(金)) ※主催者が実施した参加者アンケートによると、約4.6%が鹿児島県内(鹿児島市除く)、約1.5%が鹿児島県外からの参加であった。 ②鹿児島島の食とビールを楽しむイベント開催事業 (実施団体:㈱鹿児島放送、実施時期:R元年5月25日(土)~26日(日)、R元年8月23日(金)~9月1日(日) ※30年度選定の新規イベント) ③鹿児島クリスマスマーケット2019 (実施団体:鹿児島クリスマスマーケット実行委員会、実施時期:R元年12月5日(木)~25日(水) ※30年度選定の新規イベント)						

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、目標値を達成し、順調に推移している。 R元年度の取組状況としては、食品関連事業者の育成支援について、新商品開発に対する補助金や商談会に関するセミナーの開催等により、新商品開発や販路開拓等が促進された。 また、民間団体等が実施する“食”のイベント(3事業)に対して支援を行い“食の都”づくりや、まちなかのにぎわい創出を促進した。	新たに食品加工に取り組みようとする事業者に対するセミナーを開催するなど、食品関連事業者の育成支援については引き続き取り組み、新商品開発等を促進していく。 食のイベントの拡充・促進については、2事業に対して引き続き支援を行うほか、新たに2事業を選定する。また、来場者属性の把握・分析について実施団体に働きかける。 なお、これまでの進捗や計画期間の延長を踏まえ、KPIについては、R3年度の目標値において上方修正を行っている。



検証会議の意見
KPIについては、食の都づくりに向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、テイクアウトやドライブスルー方式の活用など、新たな視点による取組を検討していただきたい。

A

## 積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

## 検証シート (R元年度)

〔基本目標〕 **みがく**

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指 標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26) 336	375	万人	392	—

## 〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。  
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

## &lt;概要&gt;

## (1) 評価 (KPI)

- a : 十分に達成されている
- b : 概ね達成されている
- c : あまり達成されていない

## (2) 検証会議の意見

- A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである
- B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある
- C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

## 〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(1) 鹿児島オリジナルの魅力向上	20	② 歴史、自然等を生かした観光の振興	(H26) 950	1,050	万人	1,000.7	50.7%	C
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R元)						
明治維新150周年事業の実施	「西郷どん 大河ドラマ館 報告書」を作成するとともに、大河ドラマ「西郷どん」鹿児島市推進協議会を解散した。 「西郷どん」ゆかりの地をガイドの解説付きでまち歩きを楽しんでいただくなど、交流人口の拡大に取り組んだ。(企業版ふるさと納税制度を活用)							
大河ドラマ「西郷どん」と連携した取組の推進	30年の明治維新150周年の際に展示更新した「幕末探訪・郷中教育コーナー」や、「西郷どん 大河ドラマ館」の展示品の一部を大河ドラマシアターコーナーに移設して展示を行った。また、鶴岡市との兄弟都市盟約50周年を記念して、「サムライのシルク展」と題した特別展を実施した。							
維新ふるさと館の展示更新	鶴丸城御楼門建設協議会において、鶴丸城御楼門の建設工事が進められ、R2年3月に完成した。鹿児島市も同協議会にオブザーバー出席するなど県と連携を図った。 【鶴丸城御楼門建設スケジュール】 (28年度)実施設計、石垣修復工事 (29年度～)建設工事							
東京オリンピック・パラリンピック等の合宿誘致	東京オリンピックの事前合宿における7人制ラグビー南アフリカチームの視察を受け入れたほか、水泳、ハンドボールなどの競技をターゲットに、各競技団体等と連携して誘致活動を実施した。							
鹿児島マラソンなどスポーツ・ツーリズムの推進	交流人口の拡大や地域経済の活性化のため、鹿児島マラソン2020の開催準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止した。							
プロスポーツチームの育成支援と競技場などの施設整備	鹿児島ユナイテッドFC・鹿児島レブナイズが行う本市の観光PR活動等に対して支援を行い、スポーツを通じた観光交流の促進を図った。 サッカー等スタジアムの整備に向けて、整備検討協議会から示された3箇所の候補地について、それぞれの課題や周辺環境の整備等について抽出、整理するとともに、県や関係団体等との協議を行った。 鹿児島アリーナの給湯設備改修工事等を実施し、施設整備を図った。							

次ページに続く



主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(1) 鹿児島オリジナルの魅力向上	20							C
② 歴史、自然等を生かした観光の振興		入込観光客数	(H26) 950	1,050	万人	1,000.7	50.7%	
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R元)						
グリーン・ツーリズムの推進	農家民泊受入や農家民宿開業の支援、グリーン・ツーリズム活動団体等の登録・助成などの取組のほか、お茶の里などの農産物直売所を核とするグリーン・ツーリズム施設の運営や、グリーンファームにおける各種体験プログラム・イベントの実施等により、観光客等の都市部住民と農村地域との交流促進を図った。 (活動組織等及びグリーンファームにおける農業体験などの延べ体験者数 30年度 約72,300人→R元年度 約71,500人)							
平川動物公園の環境整備	入園者が快適に園内を回遊できるよう、QRコードを用い多言語に対応した「KX鹿児島体験ムービー」を設置し、動物の生態などの解説動画を来館者のスマートフォン等で見られるサービスの提供を開始した。(国の地方創生推進交付金を活用) また、安全対策として監視カメラを設置したほか、ミストファンや待合用テントの設置による熱中症対策などを行った。そのほか、入園者増を図るため、子どもから大人まで楽しめる四季折々の「動物公園まつり」や、どうぶつ学習館を活用した教育普及イベント、園内バスの運行等を実施した。							
かごしま水族館の展示更新	入館者数増を図るため、山形県鶴岡市立加茂水族館との姉妹館盟約5周年を契機とした取組としてクラゲ等をテーマとした特別企画展を行った。その他、ジンベエザメの収集に努め、9代目ユウユウから10代目に入れ替えを行い展示を継続した。 またQRコードを用い多言語に対応した「KX鹿児島体験ムービー」を設置し、生きものの生態や展示エリアの解説動画を来館者のスマートフォン等で見られるサービスの提供を開始した。(国の地方創生推進交付金を活用)							
桜島港フェリー施設の整備による観光客受入体制の充実	第二、第三パース車道橋、人道橋及び交通広場を整備し、桜島港施設整備計画に基づく整備が完了した。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、あまり達成されていないが、実績値は過去2番目に多い値となっている。 R元年度取組状況としては、鹿児島ユナイテッドFC等が行う本市観光PR活動等に対して支援を行い、スポーツを通じた観光交流が促進されたほか、平川動物公園やかごしま水族館において、QRコードを用いた多言語対応の「KX鹿児島体験ムービー」による生きものの生態などの解説動画をスマートフォン等で見られるサービスを開始するなど、受入体制の充実が図られた。また、第2期グリーン・ツーリズム推進計画に基づき、グリーン・ツーリズムも着実に推進されている。一方、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、鹿児島マラソン2020が中止となるなど、本市観光にも大きな影響が出ている。	スポーツの力やグリーン・ツーリズム等の活用により交流人口の拡大を図ることで、まちのにぎわいを維持し、地域経済の活性化につなげる。多様なツーリズムの台頭や新型コロナウイルス感染症の収束後の新たな旅行のトレンドを踏まえ、本市のスポーツツーリズムやグリーン・ツーリズムの方向性について、検討を進める。	KPIについては、歴史、自然等を生かした観光の振興に向けて、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響により、観光のトレンドが大きく変化していることから、水族館や動物公園などにおいて、その魅力を丁寧に分析し、SNSによる情報発信を強化するなど、県内外の需要掘り起こしに積極的に取り組むとともに、感染症収束後の観光の在り方などの見直しを検討すべきである。



積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R元年度)

〔基本目標〕 **みがく**

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指 標	基準値	目標値 (R元)	単 位	参考値 (R元)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26)	336	375	万人	392

〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。  
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<b>&lt;概要&gt;</b> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単 位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(1)鹿児島オリジナルの魅力向上	21							
③花と緑の回遊空間づくり		都市公園の市民一人当たり面積	(H27)	7.62	7.77	m <sup>2</sup>	7.87	166.7%
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R元)						
鹿児島駅周辺や市立病院跡地への「都市の杜」の整備		市立病院跡地緑地(加治屋まちの杜公園(仮称)1.37ha)については、園路広場や遊戯施設、休憩施設、トイレ、照明設備等の整備工事を行った。また、民間活用エリアにおいて、事業者と基本協定の締結や設計図書の承認等を行い、工事に着手した。						
城山公園自然の森の再生、武岡公園等の整備		城山公園自然の森の再生については、天然記念物である城山の植物群落を守るため、生態系を大きく破壊する侵略的外来種(モウソウチク、トウチク、ハヤトウリ)を駆除したほか、保存活用計画を策定した。また、27年度から実施していた園路改修工事を完了した。武岡公園については、整備に向けて用地測量や不動産鑑定評価等を行った。また、開発行為等に伴い整備された4公園(計1.10ha)を開設した。						
南国・鹿児島を感じさせる都市空間の創出		30年度に整備を行った鹿児島中央駅周辺の花木や草花を維持管理することで、市民や観光客が四季を通じて「南国・鹿児島を感じる都市空間」の創出に取り組んだ。(企業版ふるさと納税制度を活用)						

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、目標値を達成し、順調に推移している。R元年度の取組状況としては、いずれの取組も概ね計画通りに進捗している。	計画、設計、工事と各段階において関係機関と連携を図りながら、計画的な事業進捗に努める。 また、引き続き、市民や観光客が四季を通じて「南国・鹿児島を感じる都市空間」の創出に取り組む。 なお、これまでの進捗や計画期間の延長を踏まえ、KPIについては、R3年度の目標値において上方修正を行っている。	KPIについては、花と緑の回遊空間づくりに向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、KPIについては、次期総合戦略において、公園の利用者数、住民及び観光客のアンケート結果などを活用した指標への見直しを検討していただきたい。



A

積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R元年度)

〔基本目標〕 **みがく**

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26)	336	375	万人	392

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。  
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

<b>&lt;概要&gt;</b> <b>(1) 評価 (KPI)</b> a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	<b>(2) 検証会議の意見</b> A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(1) 鹿児島オリジナルの魅力向上	22							
④ 潤いのある都市景観の形成		景観形成重点地区	(H26)	2	5	地区	5	100.0%
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
景観形成重点地区の指定に向けた地域住民等との協働による取組の推進	鹿児島市景観計画では、本市特有の景観を有するなどの景観形成上重要な地区を「景観形成重点地区候補地」とし、住民等との協働により、これまでに「八重の棚田地区」「磯地区」など5地区を指定しており、R元年度は来訪者等への情報発信のため、地元と連携し景観案内板の内容を検討の上、地区内の眺望地点等の2か所に設置した。 また、他の候補地においても勉強会や地元との協議等を通じて、景観形成への理解を深めるとともに地区指定に向けた取組を推進した。 (地区ごとの状況) ・歴史と文化の道地区：地区内の眺望地点等に景観案内板2基を設置した。 ・慈眼寺公園周辺地区：地元住民等との意見交換会等を行い、計画素案を策定した。 ・桜島玄関口地区：景観アドバイザー派遣による勉強会や日本建築学会との共催による地元提案を実施した。							
景観まちづくり活動団体の活動等への支援	「喜入旧麓地区」、「歴史と文化の道地区」、「慈眼寺公園周辺地区」における住民との協議等において、団体活動応援補助金制度について説明を行い、活用を促した。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、目標値を達成し、順調に推移している。 R元年度の取組状況としては、指定地区における広報を図るとともに、候補地において住民等の景観への深い理解のもと、景観まちづくり活動が継続されるよう、地元への働きかけ等においては丁寧な説明等を行うなど、計画通りに取り組んだ。	引き続き、市景観計画に位置付けられている候補地において地元との協議等を重ね、協働による取組を推進し、景観づくりに係る合意が図られた後は、地区の指定を目指す。 また、指定した地区における景観まちづくり活動団体等への支援並びに、関係部局と連携や効果的な情報発信を図るなどして、潤いある都市景観の形成に努める。 なお、これまでの進捗や計画期間の延長を踏まえ、KPIについては、R2年度から「景観形成に関する意見交換会等の延べ参加者数」に入替を行っている。



検証会議の意見
KPIについては、潤いのある都市景観の形成に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、地元住民の理解と協働を得るために、住民の参加や自主的な行動を促す支援を検討していただきたい。
A

積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R元年度)

〔基本目標〕 **みがく**

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26)	336	375	万人	392

〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。  
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<b>&lt;概要&gt;</b> (1) 評価 (KPI) a: 十分に達成されている b: 概ね達成されている c: あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A: 引き続き、現状の取組を推進すべきである B: 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C: 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)	
(2) まちなかのにぎわい創出	23	① 集客力・回遊性の向上 中心市街地の歩行者通行量	(H26)	16	17.1	万人	15.0	-90.9%	C
主な取組内容									
ウォーターフロント地区への路面電車観光路線の新設の検討									
天文館ミリオネーションなどイベントの充実									
コミュニティサイクル「かごりん」の利便性等の向上									

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、あまり達成されていない。 ハード面における観光路線未整備の影響のほか、天文館ミリオネーションなどのソフト面での集客力向上や、かごりんによる回遊性向上の取組の効果が、中心市街地の日常的な歩行者通行量の増としては未だ現れていないと考えられる。また、令和元年度の歩行者通行量は減少したが、これは平成30年に明治維新150周年や大河ドラマ「西郷どん」の放映により増加した観光客数の反動減や消費税増税後の買い控えによる来街者の減少、市街地再開発事業の影響によるものと考えられる。 路面電車観光路線については、基本計画策定委員会を開催し、ルート案等について協議し、複数のルート案を設定するなど事業の推進が図られた。 天文館ミリオネーションについては、27年度からR元年度までで延べ約100万人の来場があり、冬の滞在型観光の振興に寄与したほか、中心市街地で開催されるイベントを支援することでまちなかのにぎわい創出を図った。 「かごりん」については、27年3月の事業開始からR元年度末までで延べ778,225回の利用があり、まちなかの回遊性向上などに寄与した。	路面電車観光路線については、県の動向を踏まえながら基本計画の策定に取り組む。 天文館ミリオネーションについては、天文館地区の飲食店や通り会などと連携したイベントの拡大に努めるなど、冬季イベントの風物詩として定着するよう取り組むとともに、中心市街地でのイベントの充実を図る。 「かごりん」については、まちなかの回遊性向上への効果が期待されるため、市民や観光客等による利用促進につながるよう、引き続きサイクルポートの設置検討や情報発信を行う等、さらなる利便性の向上に努める。 なお、これまでの進捗や計画期間の延長を踏まえ、R2年度から取組の成果を図るための新たな指標として、KPIに「カゴシマシティビューの乗客数」を追加している。



検証会議の意見
KPIについては、集客力・回遊性の向上に向けて、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、集客力等のマーケティングや、市電やかごりん等の移動手段と沿線のコンテンツを結び付ける日常型の体験プログラムの開発、新型コロナウイルス感染症収束後の集客や人の流れの在り方について検討すべきである。

B

積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R元年度)

〔基本目標〕 **みがく**

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26) 336	375	万人	392	—

〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。  
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<b>&lt;概要&gt;</b> (1) 評価 (KPI) a: 十分に達成されている b: 概ね達成されている c: あまり達成されていない -: 評価なし	(2) 検証会議の意見 A: 引き続き、現状の取組を推進すべきである B: 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C: 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(2) まちなかのにぎわい創出	24	JR鹿児島駅の乗降客数	(H24) 121.4	122.5	万人以上	118.7	-245.5%	b
② 新たな都市拠点の形成		「かんまちあ」で開催されるイベント数	-	100	件	194	194.0%	
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
鹿児島駅周辺地区における交通結節機能の強化や魅力ある都市拠点の形成	鹿児島駅周辺地区の駅前広場や自由通路については、引き続き整備工事を進め、新駅舎の供用を開始したほか、市道上本町磯線の整備工事を行った。 また、上町ふれあい広場及び上町の社公園(かんまちあ)については、イベント開催に向けた営業活動を行い、元年度のイベント件数は194件であった。							
本港区における集客力のある施設の整備促進	本港区の整備については、県が本市や経済団体等との意見交換を行うとともに、民間事業者の意見や外部有識者等で構成する評価委員会の意見等を踏まえ、事業者公募の公募要項(案)を作成した。							
中央町19・20番街区や千日町1・4番街区における市街地再開発の推進	鹿児島中央駅東口駅前広場に面する中央町19・20番街区については、市街地再開発組合が30年5月に再開発ビル工事に着手し、R3年1月の完成に向けて、予定通りに進んでいる。 また、いづろ・天文館地区のほぼ中央に位置する千日町1・4番街区については、市街地再開発組合がR2年1月に再開発ビル工事に着手し、R3年12月の完成に向けて、予定通りに進んでいる。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、概ね順調に推移している。 R元年度の取組状況としては、鹿児島駅周辺整備については、新駅舎の供用を開始したほか、かんまちあでのイベント件数が目標値を達成するなど、順調に進捗している。 また、本港区における集客力のある施設の整備促進については、県が事業者公募の公募要項(案)を作成した。 さらに、中央町19・20番街区、千日町1・4番街区の再開発事業については、概ねスケジュールどおりに進んでいる。	R2年度から3年度にかけて、中央町19・20番街区、千日町1・4番街区及び鹿児島駅前広場が完成することから、これらの施設を中心にさらなるにぎわいの創出と回遊性の向上を図り、中心市街地全体の活性化につなげていく。 なお、これまでの進捗や計画期間の延長を踏まえ、かんまちあで開催されるイベント数のKPIについては、R3年度の目標値において上方修正を行っている。



検証会議の意見
KPIについては、新たな都市拠点の形成に向けて、概ね達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、鹿児島駅前広場や自由通路の完成による人の流れの変化をフォローアップするほか、自動車による交通アクセスにも配慮した都市拠点整備を図っていただきたい。 また、KPIについては、次期総合戦略において、鉄道駅乗降客数以外のデータも活用した指標への見直しを検討していただきたい。
A

基本目標

4 ひと・まちを多彩に「つなぐ」

検証シート総括表 (R元年度)

<b>&lt;概要&gt;</b>	
(1) 評価(数値目標・KPI) a:十分に達成されている b:概ね達成されている c:あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A:引き続き、現状の取組を推進すべきである B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

[数値目標]

指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値	評価 (R元)	根拠統計等
国内外の交流都市数	(H27) 21	24以上	都市	25	—	—	(市)事業実績

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

[重要業績評価指標]

主な施策	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)	意見 (R元)	根拠統計等
<b>(1) 人口減少等を見据えた持続可能なまちづくり</b>										
①都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成	25	「日常生活における生活利便施設が整備されている」と感じる市民の割合	(H28) 68.7	71.0	%	69.1	17.4%	c	A	(市)アンケート調査
		公共交通不便地対策の実施地域数	(H26) 12	16	地域	16	100.0%			(市)事業実績
②ストックマネジメントの強化	26	公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画の策定・改定数	—	5	件	4	80.0%	b	A	(市)事業実績
		危険空き家の解体への助成件数	(H26) 20	144	件 (5年間)	107	74.3%			(市)事業実績
<b>(2) 互いに支え合う温もりのある地域社会の形成</b>										
①地域コミュニティの形成	27	地域コミュニティ協議会数	(H26) 3	79	団体	78	98.7%	a	A	(市)事業実績
②協働によるまちづくり	28	市内のNPO法人数	(H26) 396	420	団体	392	-16.7%	c	B	(市)事業実績
(3) 移住の促進	29	本市への移住相談件数	—	100	件/年	187	187.0%	a	A	(市)事業実績
		本市の関連施策を通じた移住者数	(H28) 17	50	人	22	44.0%			(市)事業実績
<b>(4) 都市間の交流・連携</b>										
①国際交流の推進	30	国際交流事業への参加者数	(H26) 11,523	12,700	人	13,675	182.8%	a	A	(市)事業実績
②国内の都市との多様な交流・連携	31	都市間連携に係る実施事業数	(H26) 19	25	件	25	100.0%	a	A	(市)事業実績

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりも進めなければなりません。 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながることによって、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	国内外の交流都市数	(H27)	21	24以上	都市	25

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。  
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

<b>&lt;概要&gt;</b> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(1)人口減少等を見据えた持続可能なまちづくり								
①都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成	25	「日常生活における生活利便施設が整備されている」と感じる市民の割合	(H28) 68.7	71.0	%	69.1	17.4%	c
		公共交通不便地対策の実施地域数	(H26) 12	16	地域	16	100.0%	
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R元)						
立地適正化計画の策定・推進		立地適正化計画(29年3月策定)の着実な推進を図るため、商業・福祉・交通など多様な分野の学識経験者、関係団体、関係行政機関の外部委員等で構成する推進協議会及び庁内関係課で構成する推進庁内会議を開催し、プランの進捗管理等を行うとともに、さらなるコンパクトなまちづくりを推進するため、これまで誘導施設として設定していなかった「まちなか図書館」などの公共施設を、新たに誘導施設として位置付けるためのプランの一部変更を実施した。						
公共交通ビジョンの見直し・推進		公共交通ビジョンの着実な推進を図るため、学識経験者、交通事業者、関係行政機関等で構成する推進会議を開催し、施策の実施状況や目標の達成状況を把握し、調整を行った。						
公共交通不便地対策の拡充		コミュニティバス等について、改善を図りながら運行を継続した。						

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗についてはあまり達成されていない。なお、「日常生活における生活利便施設が整備されていると感じる市民の割合」はこれまでのアンケート調査の中で最も高い割合を示したが、目標値には達していない。「公共交通不便地対策の実施地域数」は、目標値を達成している。 立地適正化計画及び公共交通ビジョンは、それぞれ策定・見直しを行い、推進協議会等を開催して進捗管理等を行った。 公共交通不便地対策は、28年度に小原地域、小野・伊敷地域の2地域においてコミュニティバスの運行を開始したほか、30年度に常盤地域、平川古屋敷地域の2地域において乗合タクシーの運行を開始した。 これらの取組により、都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成に資する取組の推進が図られた。	立地適正化計画では、届出対応等による住宅建築や誘導施設の動向把握を行うとともに、推進協議会等を開催しながら、計画の着実な推進を図る。 公共交通ビジョンでは、関係事業者等と一体となって、公共交通を軸とした交通体系を構築するため、推進会議を開催し、施策の進捗状況の把握や調整等を行い、同ビジョンの推進を図るとともに、次期ビジョン策定に向け取り組む。 また、公共交通不便地対策では、周知広報等に努めながら引き続きコミュニティバス・乗合タクシーの運行等を実施する。 KPI「公共交通不便地対策の実施地域数」については、現在対策を実施している地域で、対策を継続することを目標としている。	KPIについては、都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成に向けて、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、コミュニティバスや乗合タクシーの利便性向上に努めていただきたい。 また、KPIの根拠となるアンケートにおいては、生活利便施設の整備状況や交通ネットワークの効果を理解した上で回答できるよう改善を図っていただきたい。

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりも進めなければなりません。 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながることによって、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	国内外の交流都市数	(H27)	21	24以上	都市	25

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。  
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

<b>&lt;概要&gt;</b> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(1)人口減少等を見据えた持続可能なまちづくり								
②ストックマネジメントの強化	26	公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画の策定・改定数 危険空き家の解体への助成件数	— (H26) 20	5 144	件 件 (5年間)	4 107	80.0% 74.3%	b
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R元)						
公共施設等の計画的な更新・長寿命化		公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画として、学校施設長寿命化計画の策定に向け取り組んだ。						
空き家等の対策の強化		「鹿児島市空き家等対策計画」に基づき空家活用アドバイザー派遣等の施策に取り組み、危険空き家の解体については13件の助成を行った。						
良質な住宅ストックの形成の促進		29年度に見直した「鹿児島市公営住宅等長寿命化計画」に基づき、既存の市営住宅の「建替」と並行し、既存ストックを耐用年限まで使用するための「改善」を実施した。また、民間住宅については、耐震改修工事の助成や耐震アドバイザーの派遣等を行った。						
団地再生の推進		人口増減や高齢化率など定量的な評価をもとに選定した3地域の団地(伊敷・西郷・皇徳寺)で、地域住民・大学生等とのワークショップ等(延べ15回)を行うとともに、庁内検討会による団地の活性化に向けた具体策の検討を行ったほか、学識経験者による市民向けのシンポジウム等を実施した。						

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、概ね順調に推移している。 R元年度の取組状況としては、個別施設計画の策定に向け取り組んだほか、空き家等対策、良質な住宅ストックともに、これまで充実させてきた施策に取り組んだ。また、良質な住宅ストックの形成を促進するため、計画に基づき既存市営住宅の建替、改善を実施した。 団地再生では、29年度から団地再生推進庁内検討会を設置し、団地再生の手法や具体策について検討を進めており、R元年度は、定量的な評価をもとに選定した団地で、地域住民等とのワークショップ等を行うとともに、庁内検討会において具体策の検討を行ったほか、学識経験者による市民向けのシンポジウム等を実施した。	公共施設等の計画的な更新・長寿命化については、財政負担の軽減・平準化を図るため、個別施設計画の策定及び各計画を推進するとともに、空き家等対策の強化については、引き続き空き家等対策計画に基づき取り組む。また、29年度に見直した「公営住宅等長寿命化計画」に基づき、建替や改善を実施するほか、民間住宅については、引き続き補助等の取組を進めることで、良質なストック形成の促進を図る。 団地再生の推進については、地域住民等とのワークショップや庁内検討会により具体策の検討を行い、土地利用ガイドプランで団地核に位置づけている団地など29団地を対象とした団地再生計画(仮称)を策定する(R2年度予定)。 なお、これまでの進捗や計画期間の延長を踏まえ、KPI「公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画の策定・改定数」については、R2年度から「公共施設配置適正化計画に基づく事業完了施設数」に入替を行っている。	KPIについては、ストックマネジメントの強化に向けて、概ね達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、危険空き家の解体助成制度の周知をさらに進めるとともに、団地再生の取組においては、地域住民・大学生等とのワークショップを多くの団地で継続して実施していただきたい。



〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりも進めなければなりません。 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながることで、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	国内外の交流都市数	(H27)	21	24以上	都市	25

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。  
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

<b>&lt;概要&gt;</b> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)	
(2) 互いに支え合う温もりのある地域社会の形成	27	①地域コミュニティの形成 地域コミュニティ協議会数	(H26)	3	79	団体	78	98.7%	a
①地域コミュニティの形成									
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)								
市内全域における地域コミュニティ協議会の設立	30年度までに78団体設立されており、残り1団体の設立を支援した。(国の地方創生推進交付金を活用)								

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、30年度に3団体が設立され、29年度までに設立された75団体と合わせて78団体となり、順調に推移している。 R元年度の取組状況としては、残り1団体の設立支援及び既設協議会へのプラン策定等の活動を支援した。	幅広い団体・世代が連携・協力してまちづくりに取り組んでいくよう、市内全域での協議会設立や協議会における地域コミュニティプランの策定、プランに基づく活動を積極的に支援する。 なお、これまでの進捗や計画期間の延長を踏まえ、R2年度から地域コミュニティプランに基づく活動等に対する支援の成果を測る指標として、KPIに「地域コミュニティプランに基づき活動する協議会数」を追加している。	KPIについては、地域コミュニティの形成に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、地域コミュニティプランに基づく活動を積極的に支援するとともに、世代間の偏りや参加住民の固定化などを防ぐため、協議会相互の情報共有による活動の活性化を検討していただきたい。

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりを進めなければなりません。 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながることで、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	国内外の交流都市数	(H27)	21	24以上	都市	25

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。  
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

<b>&lt;概要&gt;</b> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(2) 互いに支え合う温もりのある地域社会の形成	28							C
②協働によるまちづくり		市内のNPO法人数	(H26)	396	420	団体	392	
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
NPO等の育成・支援、連携強化など市民活動の促進	市民活動団体の育成支援や多様な主体の連携などを目的に、組織の運営手法や事業の企画方法などのノウハウを習得する講座やNPO、企業及び市の連携を進めるために地域課題について対話するワークショップの開催、市民活動団体の情報発信を行うとともに、公益的なサービスを提供する市民活動団体11団体に対し、活動経費の一部を助成し、活動への具体的な助言を行った。 取組を進めるにあたっては、ワークショップでの取組を情報発信したり、補助金の助成対象団体の参加者に講座の参加を促すなど、それぞれを連動して実施することで、実効性を高められるよう努めた。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、基準値からほぼ横ばいであり、あまり達成されていない。 全国的にNPO法人数の増加は鈍化傾向(28年度は約600法人、29年度は約300法人の増加)となっていたが、30年度には、10年の特定非営利活動促進法の施行以来、初めて減少に転じ、R元年度も同様に減少している。 本市も同様の傾向となっており、29年度に減少に転じ、R元年度は15法人が設立、18法人が解散し、対前年度3法人の減となった。 R元年度の取組状況としては、市民活動団体の組織運営・企画立案のノウハウの習得の支援や、NPO・企業・行政などの多様な主体の連携の促進などの取組を進めている。	今後とも、市民活動団体の育成支援や多様な主体による連携促進を図るとともに、市民活動団体の情報を市としても積極的に発信していくなど、市民活動促進のための取組を継続していく。 本市のNPO法人数については、人口1万人あたりの法人数で比較すると、人口規模が同程度の中核市と比べても突出して多く、市内の法人数がここ5年ほど伸びていない状況からも飽和状態にあるのではないかと考えている。また、国の調査では、休眠状態のNPO法人は全体の約15%となっている。 このような状況から、昨年度の検証会議の意見でもあったとおり、既存のNPOの活動が活発になるよう、また、休眠状態に陥らないような取組が必要と考えている。 なお、これまでの進捗や計画期間の延長を踏まえ、R2年度からKPIに「NPO等が行う活動への助成件数」を追加している。	KPIについては、協働によるまちづくりに向けて、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、既存のNPO活動の活性化に向け支援するとともに、解散や休眠状態の原因や住民への影響を把握・分析し、必要な対応策を検討すべきである。

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりを進めなければなりません。 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながることで、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	国内外の交流都市数	(H27)	21	24以上	都市	25

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。  
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

<b>&lt;概要&gt;</b> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(3) 移住の促進	29	本市への移住相談件数	—	100	件/年	187	187.0%	a
		本市の関連施策を通じた移住者数	(H28)	17	50	人	22	
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
ワンストップ型PRツールの制作・情報発信	新たにポータルサイトを開設するなどして効果的な情報発信の取組を強化したほか、引き続き、移住PR用動画及びパンフレットを活用し、市HPや国の移住関連HPで公開するとともに、移住相談窓口での個別相談や県などが主催する東京や大阪での移住セミナー等で本市の魅力や生活環境を情報発信した。また、連携中枢都市圏4市それぞれの特色や移住者への支援策等の情報を集約したパンフレットを活用し、一体となった情報発信を行った。							
移住相談体制の充実及び関係機関との連携強化	新たにふるさと回帰支援センターの会員に入会し連携強化を図ったほか、引き続き、移住支援コーディネーターによる、移住希望者のニーズに合わせたきめ細かな情報提供や相談対応、移住後のフォローアップ等の支援を行うとともに、東京や大阪などで開催された移住関連イベントにも参加し個別相談を行うなど、相談体制の充実を図った。また、連携中枢都市圏4市でも移住関連イベントに合同参加するなどして、圏域への移住促進を図った。							
移住支援制度の整備・拡充	各部署が実施している移住支援に係る各事業の概要等の取りまとめを行い、引き続き、市のHPなどで公開するとともに、個別の移住相談などにおいて情報提供を行い、支援の充実を図った。また、移住促進庁内連絡会において、幅広い世代の本市への円滑な移住の促進に向けた連絡調整を図った。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、順調に推移している。 R元年度の取組状況としては、ポータルサイトの新設やふるさと回帰支援センターへの入会などにより、本市の魅力や生活環境の効果的な情報発信等の取組を強化するとともに、引き続き、移住支援コーディネーターによる、移住希望者のニーズに合わせた情報提供や相談対応、移住後のフォローアップ等の支援を行ったほか、東京や大阪などでの移住関連イベントにも参加し個別相談を行うなど、相談体制の充実を図り、本市への移住促進に向けた取組を推進した。	R2年度は、新たに本市への移住を検討している方を対象に移住体験ツアーを実施するとともに、引き続き、ポータルサイト等を活用した本市の魅力や生活環境の効果的な情報発信に取り組むほか、移住支援コーディネーターによる相談対応や移住関連イベントへの参加などにより相談・フォローアップ体制の充実を図り、幅広い世代の本市への円滑な移住を促進する。 なお、これまでの進捗や計画期間の延長を踏まえ、KPI「本市への移住相談件数」については、R2年度から「移住セミナー等における延べ相談件数」に入替を行っている。	KPIについては、移住の促進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、ポータルサイトによる情報発信や移住希望者のニーズの把握と移住後のフォローアップの充実を図るとともに、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた施策の強化・見直しを検討していただきたい。

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりを進めなければなりません。 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながることで、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	国内外の交流都市数	(H27)	21	24以上	都市	25

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。  
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<b>&lt;概要&gt;</b> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(4) 都市間の交流・連携	30							a
① 国際交流の推進		国際交流事業への参加者数	(H26) 11,523	12,700	人	13,675	182.8%	
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R元)						
姉妹友好都市等との交流の推進		青少年の翼事業により、本市の姉妹友好都市等5か所へ本市の青少年延べ40人を派遣し、ホームステイや学校交流等を通じて友好親善を深めた。 また、パース市との姉妹都市盟約45周年という節目を受け、訪問団をパース市に派遣し記念式典等で友好を深めた。 このほか、海外の都市と多彩な交流に取り組み、R元年11月にフランスのストラスブール市とパートナーシップ協定を締結した。						
市民レベルの交流の促進		市国際交流財団を中心に、年間を通して国際交流・国際理解・国際協力・多文化共生の地域づくりの推進に関する各種事業・イベント等を行い、アジア青少年芸術祭は9,500人、各種事業・イベント等は1,831人の参加があった。						
県と連携した国際交流センターの整備		本市のほか、県、県国際交流協会、市国際交流財団で構成する建設協議会において、国際交流センターを整備した。(R2年4月1日供用開始)						
ネクスト“アジア・鹿児島”イノベーション戦略の推進		ネクスト“アジア・鹿児島”イノベーション戦略を推進するため、先進的な取組を行う民間事業者等を新たに支援した。(国の地方創生推進交付金を活用)						

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、目標値を達成し、順調に推移している。 R元年度に新たにフランス・ストラスブール市とパートナーシップ協定を締結したほか、姉妹都市をはじめとする多くの国々の都市への青少年の派遣等を通じて、それぞれの特性に応じた多彩な交流を行い、次代を担う国際性豊かな人材の育成及び本市の国際化の推進に寄与した。 また、市国際交流財団と連携し、市民主体の幅広い国際交流活動を促進することにより、市民の国際相互理解・国際協力意識の高揚、多文化共生の地域づくりの推進が図られた。	引き続き、姉妹友好都市をはじめとする多くの国々の都市との多彩な交流の推進、次代を担う国際性豊かな人材の育成に取り組む。 また、R2年度から供用開始した国際交流センターを拠点として、市民主体の国際交流活動の促進に向けた取組等をさらに推進するとともに、市電姉妹友好都市号の全面リニューアル及び市電ストラスブール号を新たに運行するなど、姉妹友好都市等を市民がより身近に感じられるようPRを強化する。 さらに、本市における“アジアの日常化”に向け、未来を担う子ども・若者をターゲットの一つとし、多文化共生の推進も主な取組として盛り込んだアジア戦略を官民連携して推進する。 なお、これまでの進捗や計画期間の延長を踏まえ、KPIについては、R3年度の目標値において上方修正を行っている。	KPIについては、国際交流の推進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、子どもたちや市民間の交流拡大に取り組むとともに、新型コロナウイルス感染症の影響で国際交流が困難な中においても、県内在住の外国人との交流など、世界を身近に感じられる機会・体験を提供する取組を検討・工夫していただきたい。

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりを進めなければなりません。 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながることで、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R元)	単位	参考値 (R元)	対目標値
	国内外の交流都市数	(H27)	21	24以上	都市	25

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。  
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<b>&lt;概要&gt;</b> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)	
(4) 都市間の交流・連携	31	②国内の都市との多様な交流・連携	(H26)	19	25	件	25	100.0%	a
都市間連携に係る実施事業数									
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)								
四都市連携(本市及び熊本市、福岡市、北九州市)の強化	各市の市政広報紙等を活用した対外イベントの相互PR、市民割引料金の他3市の市民への適用、地場企業販路拡大に向けた共同情報発信、連携による観光プロモーション、環境分野での連絡会議の開催などを行った。								
松本市や札幌市、渋谷区等との交流の充実	鶴岡市、神戸市など自治体関係者、観光事業者、市民など県内外から900名が参加した北前船寄港地フォーラム(講演、パネルディスカッション、観光物産PR等)を本市で開催するとともに、各寄港地(鶴岡市、小樽市等)の実施する同フォーラムに参加するなど連携、交流を図った。また、本市のクリエイティブ産業振興の取組等を全国へ情報発信するため、渋谷区の協力を得て同区において、クリエイティブ産業の振興をテーマとしたイベントを開催したほか、各都市のイベントへの相互参加、九州縦軸の4市連携の観光プロモーション、職員の人事交流などを引き続き行った。								

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、目標値を達成し、順調に推移している。 R元年度の取組状況としては、九州初となる北前船寄港地フォーラムを本市で開催するとともに、各寄港地の実施する同フォーラムに参加するなど連携、交流を図った。また、本市のクリエイティブ産業振興の取組等を全国へ情報発信するため、渋谷区においてイベントを開催したほか、各都市のイベントへの相互参加、九州縦軸の4市連携の観光プロモーション、職員の人事交流などを引き続き行った。	各都市と本市の個性や共通点などを把握したうえで新たな連携事業の創出を検討するとともに、連携の効果が市民に伝わるよう機会を捉えた周知広報に努める。 また、官民の連携した取組についても、観光や産業、環境の分野などにおいて、引き続き検討を行う。 なお、KPIについては、目標値を達成していることから、R3年度の目標値において上方修正を検討する。	KPIについては、国内の都市との多様な交流・連携に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、官民連携した取組を進め、市民への積極的な情報提供や交流・連携の見える化を図るほか、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえたオンライン交流などを進めるとともに、収束後に向けた準備も検討していただきたい。

## 重点戦略

## (1) 世界基準の観光地域づくり

検証シート総括表 (R元年度)

〔関連する基本目標〕

1. しごとで活力を「つくる」  
3. まちの魅力を「みがく」

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)	意見 (R元)	根拠統計等
(1) 世界に誇りうる地域資源の活用	32	外国人宿泊観光客数	(H26) 12	26	万人	49.3	266.4%	a	B	(市)観光統計
① 世界文化遺産の活用										
② JR磯駅の設置に関する検討										
③ 世界ジオパーク認定に向けた取組の推進										
(2) 外国人観光客の誘致・受入体制の整備										
① 鹿児島観光コンベンション協会の組織体制の充実・強化										
② 東アジア等に向けた観光プロモーションの推進										
③ 外国人観光客の受入体制の整備										

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

## &lt;摘要&gt;

## (1) 評価 (KPI)

- a : 十分に達成されている  
b : 概ね達成されている  
c : あまり達成されていない

## (2) 検証会議の意見

- A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである  
B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある  
C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔基本的方向〕

日本列島をつなぐ新幹線の南の発着点であり、東アジアに近接する陸・海・空の交通結節点でもある本市にとって、観光関連産業の発展や成長は重要です。地域経済のさらなる活性化のためには、観光を持続性のある地域ビジネスとして、より発展させていくことが必要不可欠と言えます。  
 平成26年の本市観光統計では、宿泊観光客数が336万6千人と前年を上回りましたが、とりわけ外国人宿泊観光客数が12万6千人で前年比31.3%増と大きく伸びており、インバウンドが大きな可能性を秘めています。  
 このような中、本市では「旧集成館関連遺産群」を含む「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録され、また、「桜島・錦江湾ジオパーク」の世界ジオパーク認定に向けて取組を展開しており、これらを絶好の機会として、特に外国人宿泊観光客数の拡大に向け、戦略的かつ広域的に取り組むため、鹿児島観光コンベンション協会の組織体制の充実・強化並びに民間との連携の強化を図り、ストーリー性を持った魅力あふれる世界基準の観光地域づくりを進め、若者にとって魅力的な雇用の場を創出するとともに、交流人口の増加による地域経済の活性化を図ります。

<p>&lt;概要&gt;                  (1) 評価 (KPI)                  a : 十分に達成されている                  b : 概ね達成されている                  c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見                  A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである                  B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある                  C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(1)世界に誇りうる地域資源の活用 (2)外国人観光客の誘致・受入体制の整備	32	外国人宿泊観光客数	(H26) 12	26	万人	49.3	266.4%	a
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
(1) ①世界文化遺産の活用	寺山炭窯跡と関吉の疎水溝案内所に新たに公衆無線LANとエアコンを設置し、受入環境の充実を図るとともに、「明治日本の産業革命遺産」の本市構成資産について、その価値や魅力の情報発信、理解増進等の取組を推進した。(旧集成館来訪者数 30年度約70万人 R元年度約50万人)(大雨による土砂崩れのため、R元年7月1日から寺山炭窯跡周辺一帯は立入禁止)							
②JR磯駅の設置に関する検討	31年3月に経済界が主体となって設立した磯新駅設置推進協議会での磯地区への新駅設置に向けた協議や各種取組に対して協力・支援を行い、磯新駅設置の事業主体、費用負担の基本的な考え方がとりまとめられた。(協議会2回、専門部会9回開催)							
③世界ジオパーク認定に向けた取組の推進	桜島・錦江湾ジオパークの世界認定に向けて、鹿児島市全域及び始良市、垂水市へのエリア拡大への取組を進めるとともに、新たな認定ジオガイドの養成を行うなど、ジオパーク活動の充実を図った。また、アジア太平洋地域におけるジオパークネットワーク活性化に向けた支援事業への参加をするなど、国際交流・国際貢献に関する取組を進めた。							
(2) ①鹿児島観光コンベンション協会の組織体制の充実・強化	さらなる観光振興による本市経済の活性化を図るため、鹿児島観光コンベンション協会の組織体制の充実・強化を支援し、鹿児島市DMO戦略プランに基づく、官民連携事業を推進した。(国の地方創生推進交付金を活用)							
②東アジア等に向けた観光プロモーションの推進	台湾、タイ、ベトナム、米国で情報発信をした。台湾ではトップセールスに合わせたSNS等での発信、タイでは、チャーター便の就航に合わせたWEBの活用、ベトナムでは、有料チャンネルのCM、米国ではWEBの活用により、それぞれ実施した。また、香港、中国、台湾で誘致セールスを行ったほか、東アジア及び東南アジア地域をターゲットとし、外国人観光客の誘致促進を図るため、留学生等によるSNSを活用した情報発信を行った。(国の地方創生推進交付金を活用)							
③外国人観光客の受入体制の整備	本市を訪れる外国人観光客の満足度を高めるため、民間事業者による外国語案内表記等に対して助成するとともに、外国語版「観光ガイドマップ」の作成や本市観光施設のWi-Fi運営等を行った。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
<p>KPIの進捗については、目標値を達成し、順調に推移している。                      R元年度の取組状況としては、世界文化遺産については、案内所への公衆無線LAN等の設置など、受入体制の充実を図った。また、磯新駅については、事業主体、費用負担の基本的な考え方がとりまとめられ、ジオパークについては、世界ジオパーク認定に向け、始良市、垂水市へのエリア拡大に向けた取組を進めた。                      鹿児島観光コンベンション協会については、組織・人員体制の充実を支援し、DMO戦略プランに基づく、官民連携事業が進められたほか、東アジア・東南アジアからの誘客に向け、市場に応じた効果的なプロモーション等を行うとともに、外国人観光客の満足度を高めるため、民間事業者を支援し、受入体制の充実を図った。</p>	<p>世界文化遺産とジオパークの相互連携による一体的な情報発信や活用など、効果的な事業の推進を図るとともに、戦略的なプロモーションを引き続き実施していく。                      施策の推進にあたっては、外国人観光客のニーズや属性等の情報収集・分析、衛生対策の強化などの受入体制の充実、関係機関と連携した誘致プロモーションなどにより、外国人宿泊観光客の回復に取り組む。                      新型コロナウイルスや国際情勢等の動向を注視しながら、KPIの設定を検討する。</p>	<p>KPIについては、世界基準の観光地域づくりに向け、十分に達成されているが、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、取組の一部を改善する必要がある。                      なお、施策の推進にあたっては、引き続き、外国人のニーズ等の把握・分析や受入体制の充実に取り組むとともに、SNS発信力の向上に努めるほか、感染症の影響により見直しが必要なものを検討すべきである。                      また、KPIについては、R2年度における感染症の影響が明らかであることから、その動向を注視しながら適切な時期に見直しを検討すべきである。</p>

## 重点戦略

## (2) 健“高”医“良”都市の創造

検証シート総括表 (R元年度)

〔関連する基本目標〕

1. しごとで活力を「つくる」
2. 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」
4. ひと・まちを多彩に「つなぐ」

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)	意見 (R元)	根拠統計等	
(1)健康と生きがいを実感できる市民生活の提供	33	新たなヘルスケアビジネスの展開に取り組む事業者数	(H26)	8	65	事業者 (5年間)	63	96.9%	a	A	(市)事業実績
①健康分野に関する新たな産業の創出		介護保険サービスの総給付費に占める在宅サービス費の割合	(H26)	51.7	55.5	%	55.9	110.5%			(市)事業実績
②生涯活躍のまち構想・基本計画の策定・推進											
③地域包括ケアの推進											
④民間医療機関等との連携強化											

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

&lt;摘要&gt;

(1) 評価 (KPI)

- a : 十分に達成されている
- b : 概ね達成されている
- c : あまり達成されていない

(2) 検証会議の意見

- A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである
- B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある
- C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである



[基本的方向]

超高齢社会の進行が見込まれる中においては、誰もが生きがいを持って健やかに暮らせる地域社会の創造を目指していくことが重要です。  
 また、本市産業の特性を見ると、ウェイトの高いサービス業の中でも、特に「医療・福祉業」の集積が厚く、常用雇用者数の推移も、平成24年が約3万9千人となり、平成16年と比べ約1.5倍と大きく増加しています。経済振興の観点からも、この分野に重点を置いた取組を進めていくことが有用です。  
 本市の豊かな地域資源や充実した都市機能を活用しながら、本市の基盤産業の一つである医療・福祉業を生かした健康分野に関する新たな産業の創出、さらには民間主導による生涯活躍のまち(CCRC)構想の検討に取り組むとともに、医療・介護の施設や体制の充実などを通して、市民が、高い健康水準を保ちながら生き生きと暮らし、併せて、良好な医療・介護サービスを受けることができる健“高”医“良”都市の創造を図り、これにより、女性や若者の雇用の場の確保にもつなげていきます。

<p>&lt;概要&gt;                  (1) 評価 (KPI)                  a : 十分に達成されている                  b : 概ね達成されている                  c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見                  A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである                  B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある                  C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

[主な施策及び重要業績評価指標(KPI)]

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(1) 健康と生きがいを実感できる市民生活の提供	33	新たなヘルスケアビジネスの展開に取り組む事業者数 介護保険サービスの総給付費に占める在宅サービス費の割合	(H26) 8 (H26) 51.7	65 55.5	事業者 (5年間) %	63 55.9	96.9% 110.5%	a
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
①健康分野に関する新たな産業の創出	ヘルスケアビジネス創出セミナー(2回)の開催、ヘルスケア分野のビジネスアイデアの創出とその事業化支援(事業化支援:4者×4回)、経済産業省「健康寿命延伸産業創出推進事業」を活用したプロジェクトの支援のほか、産学連携のきっかけづくりを目的としたマッチングイベントの開催(8回)や、新サービス等の創出に向けた取組に対する助成(3者)等を通じて、新たなヘルスケアビジネスの事業化支援を実施した。これらの支援の結果、「健康食」の開発を支援する機能性表示食品開発支援サービスの開発などに繋がった。なお、R元年度において、「健康部会」を「ヘルスケア産業部会」へ名称を変更し、13者が新たに同部会に登録した。							
②生涯活躍のまち構想・基本計画の策定・推進	鹿児島市「生涯活躍のまち」構想・基本計画に基づき、「生涯活躍のまち」形成に取り組む事業主体を支援し、喜入地域における形成事業の推進を図った。また、その取組の情報発信に努めながら更なる事業の波及を目指して、新たな事業主体の募集を行ったが、応募には至らなかった。(国の地方創生推進交付金を活用)							
③地域包括ケアの推進	要支援者等を対象に多様なニーズに対応した多様なサービスを提供する介護予防・日常生活支援総合事業を実施するとともに、新たに、要支援者等の生活援助を行うボランティア団体に対する補助制度を創設し、高齢者を地域全体で支える体制づくりを進めたほか、地域包括支援センターの職員を増員(2人)し、サブセンターを設置するなど、高齢者の介護予防・自立支援を推進した。また、認知症地域支援推進員を増員(1人)し、認知症の早期診断、対応に向けた支援体制を強化するなど、様々な取組を進めた。 また、高齢者が誰でも参加できる介護予防活動としての「よかよか元気クラブ」134か所、及び地域の閉じこもりがちな高齢者に声かけし、心身機能の維持回復に努める「お達者クラブ」221か所がそれぞれ継続的に活動できるよう支援したほか、両クラブにリハビリ専門職を派遣し、介護予防に関する知識の普及や技術の援助を行った。							
④民間医療機関等との連携強化	市立病院では地域医療支援病院として、地域医療機関との連携を推進するため、地域の医療機関への訪問(31回)や医療機関を招いた連携に関する講演会の開催等を行うなどして、医療連携の推進等に取り組んだ。これらの取組を通じて紹介率が向上し、R元年度は紹介率76.9%(前年度比1.7ポイント増)となった。							

次ページに続く

主な施策の名称	No.	41 重要業績評価指標(KPI)				実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
		基準値	目標値 (R元)	単位				
(1)健康と生きがいを実感できる市民生活の提供	33	新たなヘルスケアビジネスの展開に取り組む事業者数	(H26) 8	65	事業者 (5年間)	63	96.9%	a
		介護保険サービスの総給付費に占める在宅サービス費の割合	(H26) 51.7	55.5	%	55.9	110.5%	

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)
<p>KPIの進捗については、順調に推移している。</p> <p>R元年度の取組状況としては、健康寿命延伸や地域包括ケアシステムの構築に資するヘルスケアビジネス創出の促進をはじめ、「生涯活躍のまち」を形成する事業主体の支援や高齢者の相談・支援体制の構築、生活援助を行うボランティア団体や地域で介護予防活動を展開する団体の支援等を行った。</p> <p>市立病院では地域医療支援病院として、他の医療機関との連携や地域で必要な医療を確保するための医療機関相互の機能分化を推進した。</p>	<p>引き続き、健康寿命延伸や地域包括ケアシステムの構築に資するヘルスケアビジネス創出を図るため、関係機関と連携しながら、ビジネスアイデアの創出とその事業化支援に取り組む。</p> <p>「生涯活躍のまち」形成に向け、引き続き、喜入地域における事業主体の取組を支援し、自走化・自立化を促進するとともに、その取組の情報発信に努めながら更なる事業の波及を目指して、新たな事業主体を募集・選定する。</p> <p>地域包括ケアの中核的役割を担う地域包括支援センターの機能を強化するなど、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスの一体的な提供体制の充実・強化を図るとともに、引き続き「よかよか元気クラブ」の活動に対し、県補助金を活用したポイントを付与するなどして地域で活動する団体を増やし、継続した活動ができるための支援を行う。</p> <p>市立病院では地域医療支援病院として、地域の医療機関との医療連携や相互の機能分化を推進するため、医療機関への訪問等の取組を充実していく。</p> <p>なお、これまでの進捗や計画期間の延長を踏まえ、KPI「介護保険サービスの総給付費に占める在宅サービス費の割合」については、R3年度の目標値において上方修正を行っている。</p>



検証会議の意見
<p>KPIについては、健康と生きがいを実感できる市民生活の提供に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。</p> <p>なお、KPIについては、次期総合戦略において、「よかよか元気クラブ」などの取組の増加を目指すような指標への見直しを検討していただきたい。</p>

A

重点戦略

〔関連する基本目標〕

1. しごとで活力を「つくる」  
4. ひと・まちを多彩に「つなぐ」

(3) 大学との連携強化とふるさと教育の推進 検証シート総括表 (R元年度)

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)	意見 (R元)	根拠統計等
(1) 大学との連携強化	34	市内大学生の県内就職率	(H26) 61.7	69.7	%	56.5	-65.0%	b	B	COC+に参画している市内5大学の公表資料  (市)事業実績
① 大学等の特色を生かした共同研究・連携による各種施策の実施		市内6大学との新規連携事業・取組数	—	34	事業 (3年間)	56	164.7%			
② 学生が主体的に地域を学ぶ活動への支援やまちづくりへの関心を高める場の創出										
③ 市内の大学が推進するCOC事業との連携										
(2) ふるさと教育の推進	35	郷土教育に係る体験活動の実施率	(H26) 90.6	100.0	%	100.0	100.0%	a	A	(国)学校教育についての実態調査
① 郷土教材の活用や地域人材等の授業への参画										
② 人材育成プログラムの策定・実施										
③ 職場体験活動の充実										
④ まちづくり提言の機会の創出										

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

<p>&lt;摘要&gt;</p> <p>(1) 評価(KPI)</p> <p>a:十分に達成されている b:概ね達成されている c:あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見</p> <p>A:引き続き、現状の取組を推進すべきである B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
--	--

[基本的方向]

地方に魅力ある雇用の場が少ないこと等を背景に、若い世代が大学等の卒業時に大都市圏へ流出しており、地元への定着やUターンを図るためには、雇用環境の改善はもとより、生まれ育った本市の風土を愛し、地域に貢献したいという郷土に対する愛着心を育むことが重要です。  
本市と協定を締結している大学と、それぞれの特色を生かした連携事業をはじめ、市内の6つの大学と連携しながら、歴史、伝統や自然という豊富なフィールドの下で、学生の主体的なまちづくりへの参画や地域を学ぶ活動を通して、若者定着に向けた取組等を推進します。  
また、小学校から高等学校までの各ステージにおいて、郷土の歴史や偉人、先人等を教材にした地域への理解を深める取組や、まちづくりについて夢やアイデアを出し合い、意見交換を行う取組も進め、「ふるさと・鹿児島」への誇りと愛着の心を育みます。  
これらを通して、まちづくりの担い手となる人材を育成するなど、大学との連携強化とふるさと教育を推進し、若者の定着を目指します。

<p>&lt;概要&gt; (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	---

[主な施策及び重要業績評価指標(KPI)]

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値			実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
			目標値 (R元)	単位				
(1)大学との連携強化	34	市内大学生の県内就職率	(H26) 61.7	69.7	%	56.5	-65.0%	b
		市内6大学との新規連携事業・取組数	—	34	件 (3年間)	56	164.7%	
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
①大学等の特色を生かした共同研究・連携による各種施策の実施	連携協定を締結している市内6大学(鹿児島大学、鹿児島国際大学、志学館大学、鹿児島県立短期大学、鹿児島純心女子短期大学、鹿児島女子短期大学)とともに、かごしま水族館との共同研究や新島利活用事業、Instagramコンテストの実施、団地再生の推進、クリエイティブ産業創出支援事業、食育フェスタの開催、明るい選挙推進事業など、各大学の特色を生かした連携事業・取組を実施した。							
②学生が主体的に地域を学ぶ活動への支援やまちづくりへの関心を高める場の創出	「まちづくり”未来の担い手”育成事業」として、市内学生を対象に課題解決型インターンシップを実施し、次期総合計画の策定に向けた取組への学生の参画を通して、学生の発想をまちづくりに生かすとともに、地元で活躍できる人材育成につなげることができた。							
③市内の大学が推進するCOC事業との連携	鹿児島大学においては、30年度でCOC事業が終了したが、地域志向科目「大学と地域」の講師として課長級職員を派遣し、防災・観光分野の講義を行ったほか、鹿児島国際大学においては、COC事業である「フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム」において、「地域フィールド演習」のフィールドワークを受け入れ、学生が地域社会と協働しながら解決策を考え実践する取組を推進した。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
<p>KPIの進捗については、概ね順調に推移している。なお、「市内大学生の県内就職率」については、社会経済情勢や雇用環境など諸要因もあり、基準値を下回った。 R元年度は、「まちづくり”未来の担い手”育成事業」として、市内学生を対象に課題解決型インターンシップを実施し、次期総合計画の策定に向けた取組への学生の参画を通して、学生の発想をまちづくりに生かすとともに、地元で活躍できる人材育成につなげることができた。 また、各大学とのその他の連携事業・取組についても、充実・深化を図った。</p>	<p>R2年度は、次期総合計画に関して課題解決型インターンシップを実施するとともに、基本構想(案)について若者への周知や意見聴取、まちづくりに対する若者の意識醸成を目的に「若者会議(仮称)」を開催するほか、さまざまな分野において、各大学との連携事業・取組をさらに充実・深化させる。 なお、KPI「市内6大学との新規連携事業・取組数」については、R3年度の目標値において上方修正を行ったが、その目標値を達成していることから、さらなる上方修正を検討する。</p>	<p>KPIについては、大学との連携強化に向けて、概ね達成されている。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、課題解決型インターンシップや若者会議を通じて、地元で活躍できる人材育成を進め、地元企業との連携にも積極的に取り組むべきである。</p> <p style="text-align: right;">B</p>

〔基本的方向〕

地方に魅力ある雇用の場が少ないこと等を背景に、若い世代が大学等の卒業時に大都市圏へ流出しており、地元への定着やUターンを図るためには、雇用環境の改善はもとより、生まれ育った本市の風土を愛し、地域に貢献したいという郷土に対する愛着心を育むことが重要です。  
本市と協定を締結している大学と、それぞれの特色を生かした連携事業をはじめ、市内の6つの大学と連携しながら、歴史、伝統や自然という豊富なフィールドの下で、学生の主体的なまちづくりへの参画や地域を学ぶ活動を通して、若者定着に向けた取組等を推進します。  
また、小学校から高等学校までの各ステージにおいて、郷土の歴史や偉人、先人等を教材にした地域への理解を深める取組や、まちづくりについて夢やアイデアを出し合い、意見交換を行う取組も進め、「ふるさと・鹿児島」への誇りと愛着の心を育みます。  
これらを通して、まちづくりの担い手となる人材を育成するなど、大学との連携強化とふるさと教育を推進し、若者の定着を目指します。

<p>&lt;概要&gt; (1) 評価 (KPI) a: 十分に達成されている b: 概ね達成されている c: あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A: 引き続き、現状の取組を推進すべきである B: 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C: 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
--	--

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(2) ふるさと教育の推進	35	郷土教育に係る体験活動の実施率	(H26) 90.6	100	%	100	100.0%	a
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
①郷土教材の活用や地域人材等の授業への参画	社会科や総合的な学習の時間等において、「のびゆく鹿児島」や「かごしまタイムトラベル」を活用して、郷土や世界文化遺産に関する学習を行ったほか、道徳の時間に、マンガ教材(「薩摩義士伝」や「徳の交わり」)を活用して、郷土の偉人の業績等を学んだ。また、地域や市内の文化施設の利用促進や「かごしまジュニア検定」の受検を推奨している。各学校では、卒業生や地域の先輩をはじめ、各界で活躍する郷土出身者の講師招へい等を行い、郷土への誇りや愛着心を育んだ。また、授業等の中で各小・中学校に派遣する小学校英会話活動協力員や外国語指導助手に鹿児島の魅力を伝える活動も行った。							
②人材育成プログラムの策定・実施	人材育成プログラム「かごしま創志塾・ジュニア創志塾」では、ふるさと教育に係る内容として、尚古集成館、仙巖園、旧鹿児島紡績所技師館、西郷南洲顕彰館の見学ならびに加治屋町周辺のフィールドワーク等、郷土の歴史・文化、明治維新で活躍した先人たちの高い志と行動力についての学習や、鹿児島から世界を相手に活躍している県内企業の経営者による講話等を実施した。 卒業生の活躍の場づくりとしては、海外派遣参加経験者である2期生・4期生を講師として招き、体験発表・ディスカッションの場を設けた。また、現塾生を含めたネットワークの構築については「卒業生からのメッセージ」(新規の取組)への協力を依頼しホームページに掲載した。 卒業生に対しては、現塾生との交流会、特別講演への案内を行い、情報交換の場や学習機会の提供に努めた。							
③職場体験活動の充実	職場体験活動は、「総合的な学習の時間」において、全ての中学校で2～4日の計画で実施した。体験先の多くは校区内の企業であり、活動を通して、学ぶことと働くことの意義の理解や望ましい勤労観・職業観の形成等に取り組んだ。							
④まちづくり提言の機会の創出	中高生を対象とした「子どもミーティング」を22年度から毎年度実施しており、これまで290件の意見・提言が出され、「鹿児島中央駅前の観光案内板にもう少し詳しい説明がほしい。」や「案内板への外国語表記の充実」が施策に反映されているほか、26年度から鹿児島大学において実施している「市政出前講座」を30年度から志学館大学、鹿児島市純心女子短期大学、元年度から鹿児島国際大学、鹿児島女子短期大学も加えて実施し、学生と市政に関する意見交換等を行っており、これらを通じて若い世代の市民参画への意識やまちづくりへの関心を高めている。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
<p>KPIの進捗については、全ての小・中学校で郷土教育に係る体験活動を実施しており、順調に推移している。 「かごしま創志塾・ジュニア創志塾」では、郷土の歴史・文化、明治維新で活躍した先人たちの高い志と行動力について学ぶカリキュラムを実施し、郷土に対する愛着心の育成や卒業生・現塾生のネットワーク構築、プログラムの周知強化に努めた。 職場体験活動では、全ての中学校で実施しており、生徒の希望に沿うよう、受入企業等の開拓に努めた。</p>	<p>今後とも、郷土教育に係る体験活動を推奨するとともに、各学校において確実に実施するよう指導を継続する。 また、「かごしま創志塾・ジュニア創志塾」の実施にあたっては、必要に応じてカリキュラムの見直しを行うほか、同窓会や卒業生の活躍の場の充実を図るとともにホームページ等での情報提供に努め、卒業生相互のネットワーク構築に取り組む。 職場体験活動では、これまで以上に働くことの意義や喜びなどを学べる活動内容を充実するよう指導を継続する。</p>	<p>KPIについては、ふるさと教育の推進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、若者が地元貢献に対する自分の役割を実感できるような取組を工夫・検討していただきたい。 また、KPIについては、次期総合戦略において、体験活動の参加者数や学生の意識変化などを評価する指標への見直しを検討していただきたい。</p> <p style="text-align: right;">A</p>

## 重点戦略

## (4) 連携中枢都市圏の形成

検証シート総括表 (R元年度)

〔関連する基本目標〕

1. しごとで活力を「つくる」
2. 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」
3. まちの魅力を「みがく」
4. ひと・まちを多彩に「つなぐ」

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)	意見 (R元)	根拠統計等
(1) 圏域全体の経済成長のけん引	36	連携事業数	—	25	事業 (5年間)	27	108.0%	a	A	(市)事業実績
①産学金官民が一体となった協議会の立ち上げ										
②地域資源を活用した地域経済の裾野拡大										
③戦略的な観光施策の展開										
(2) 高次の都市機能の集積・強化										
①高度な医療サービスの提供										
②高度な中心拠点の整備、広域的公共交通網の整備										
(3) 圏域全体の生活関連機能サービスの向上										
①地域医療・介護・福祉など生活機能の強化										
②災害対策における連携強化										
③住民等の交流や圏域外からの移住の促進										

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

## &lt;摘要&gt;

## (1) 評価 (KPI)

- a : 十分に達成されている
- b : 概ね達成されている
- c : あまり達成されていない

## (2) 検証会議の意見

- A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである
- B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある
- C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔基本的方向〕

人口減少や高齢化の進行により、地域コミュニティや生活基盤の存続の危機が懸念されています。このような状況下にあっても、地域経済を持続可能なものとし、安心して快適な暮らしを営んでいけるようにするため、人々の暮らしを支え、経済をけん引していくのにふさわしい核となる都市やその圏域を戦略的に形成し、その上で、人々の暮らしを支える行政サービスを提供していくことが必要です。地域の活力を持続し、住民が安心して快適な暮らしを営んでいけるようにするためには、一定の人口規模の確保だけでなく、地域経済や都市機能、生活関連機能の面においても、日常生活圏を形成する都市間の連携が重要です。県都として、県全体の発展をけん引する役割も担っている本市と周辺自治体との連携を高め、新たに連携中枢都市圏を形成し、活力ある社会経済の維持を目指します。

<p>&lt;概要&gt;</p> <p>(1) 評価 (KPI)</p> <p>a : 十分に達成されている</p> <p>b : 概ね達成されている</p> <p>c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見</p> <p>A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである</p> <p>B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある</p> <p>C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

注)\*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R元)	単位	実績値 (R元)	対目標値	評価 (R元)
(1)圏域全体の経済成長のけん引 (2)高次の都市機能の集積・強化 (3)圏域全体の生活関連機能サービスの向上	36	連携事業数	—	25	事業 (5年間)	27	108.0%	a
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R元)							
(1) ①産学金官民が一体となった協議会の立ち上げ ②地域資源を活用した地域経済の裾野拡大 ③戦略的な観光施策の展開	産学金官民によるビジョン懇談会や女性、学生等向けの起業応援セミナーの開催、グリーン・ツーリズム宿泊体験ツアーの実施、圏域内のスポーツイベント等へ相互出展するスポーツ・ツーリズム推進事業に取り組むなど、11事業を実施した。							
(2) ①高度な医療サービスの提供 ②高度な中心拠点の整備、広域的公共交通網の整備	地域医療等を担う人材を育成するための医学研究講義の開催など2事業を実施した。							
(3) ①地域医療・介護・福祉など生活機能の強化 ②災害対策における連携強化 ③住民等の交流や圏域外からの移住の促進	図書館の広域利用や災害時帰宅困難者一時避難施設の指定、各市が実施する職員研修への相互参加など、14事業を実施した。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R元年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIについては、目標値を達成し、順調に推移している。また、具体的な取組の進捗としては、4市の幹事会やビジョン懇談会、市長会議を開催し、かごしま連携中枢都市圏ビジョンの適切な進行管理を図った。	引き続き、連携事業の効果的な実施に取り組むとともに、検討中の連携事業やビジョンに掲載していない新たな連携事業については、実施に向けて積極的に検討・協議を行うなど、連携中枢都市圏の着実な推進を図る。	KPIについては、連携中枢都市圏の形成に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。なお、施策の推進にあたっては、市民の利便性の向上や連携による効果が高い事業を4市足並みを揃えて取り組んでいただきたい。 A